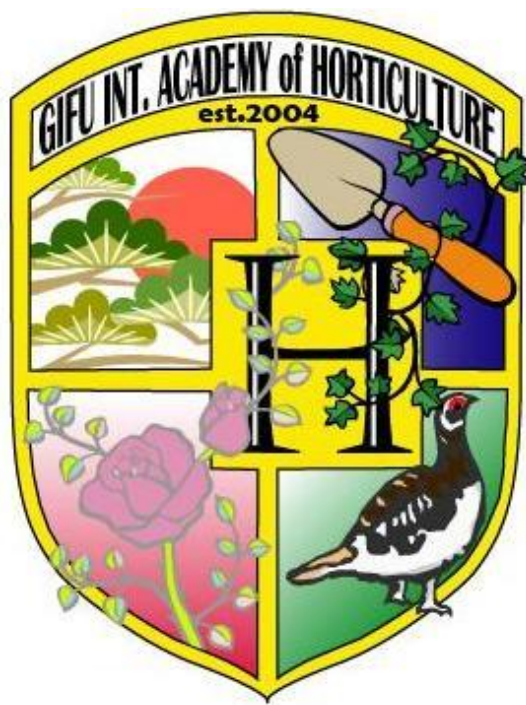


岐阜県立国際園芸アカデミー

国際交流計画



令和4年9月

目 次

I	計画の概要	
1	策定の趣旨	1
2	計画期間	1
3	計画の性格・位置付け	1
4	計画の進行管理及び評価	2
II	本学における国際交流の歩み	
	概要	3
1	モロッコ王国	4
2	フランス	1 5
3	中国	2 3
4	ベトナム	2 8
5	その他	3 1
III	海外視察研修の成果	3 4
IV	国際交流の現状と課題	
1	現状	4 7
2	課題	5 2
V	基本方針（目指す姿）	5 2
VI	運営方針及び推進施策と目標指標	
1	海外の教育機関等との連携体制の整備	5 3
2	海外の教育機関等との人材育成面での連携	5 4
3	海外を相手にした情報発信と情報収集	5 5

I 計画の概要

1 策定の趣旨

岐阜県立国際園芸アカデミー（以下「本学」という。）は、花と緑に関する専門的かつ総合的な知識及び技術を有する人材を育成することにより、花と緑の産業の発展及び文化の振興を促進し、健康でこころ豊かな生活を創造するため、学校教育法に基づく修業年限2年の専修学校として平成16年（2004年）4月に開学した。

現代社会においては、グローバル時代の進展により、ありとあらゆる面において、海外との相互依存関係が深化している。キャッチフレーズや一過性のイベントに頼り、結果的に「単発的な友好関係」とどまる国際交流ではなく、ごく自然に、多くの国・地域や人々といろいろな形で持続的な関係を築いていくことが求められている。

本県においては、今後進むべき方向を見据えながら、県益に適う中長期的な「岐阜県国際交流戦略」を平成19年（2007年）4月に策定し、国際交流を通じて、世界に開かれた岐阜県づくり・誇りの持てるふるさとづくりを目指している。

本学では、平成19年（2007年）8月、「岐阜県とモロッコ王国ウジュダ・アンガッド府の友好交流に関する覚書」の締結を機に平成21年（2009年）から3年間、ウジュダ・アンガッド府職員の受入れ研修を実施するとともに、本学教職員が専門家としてモロッコ王国を訪問するなど交流活動を行ってきた。

平成30年（2018年）5月に設置した「県立農林系アカデミー・農業大学校運営向上検討会」では「将来、国際競争力をもてるような、基礎的な能力を身に付けた人材の育成が重要」との意見が出され、平成31年（2019年）3月に策定した「県立農林系アカデミー・農業大学校運営向上プラン」において「海外の園芸協会等民間団体や大学との人材育成面での連携推進」を掲げた。令和元年（2019年）12月及び令和4年（2022年）5月に、将来本学と相互交流の取組みを継続できるような海外の教育機関等を探るため、フランスの園芸学校や庭園を調査した。

また、本学では2年生及び教職員が園芸大国のイギリス、オランダ、フランスにおいて伝統的な有名庭園をめぐり、世界最大級のフラワーショーや植物園、園芸店、生花店を視察し、園芸に関する理解を深め、国際感覚を身につける「海外視察研修」を平成17年（2005年）から続けている。

今後も、国際性と自立性を備え、花と緑の産業の中核となって活躍できる人材及び地域社会に貢献できる人材を育成するとともに、本学の国際化を推進するため、本学が海外の民間団体や大学と連携するなど、どのように国際交流を進めていくべきかを示す「岐阜県立国際園芸アカデミー国際交流計画」（以下「本計画」という。）を策定する。

2 計画期間

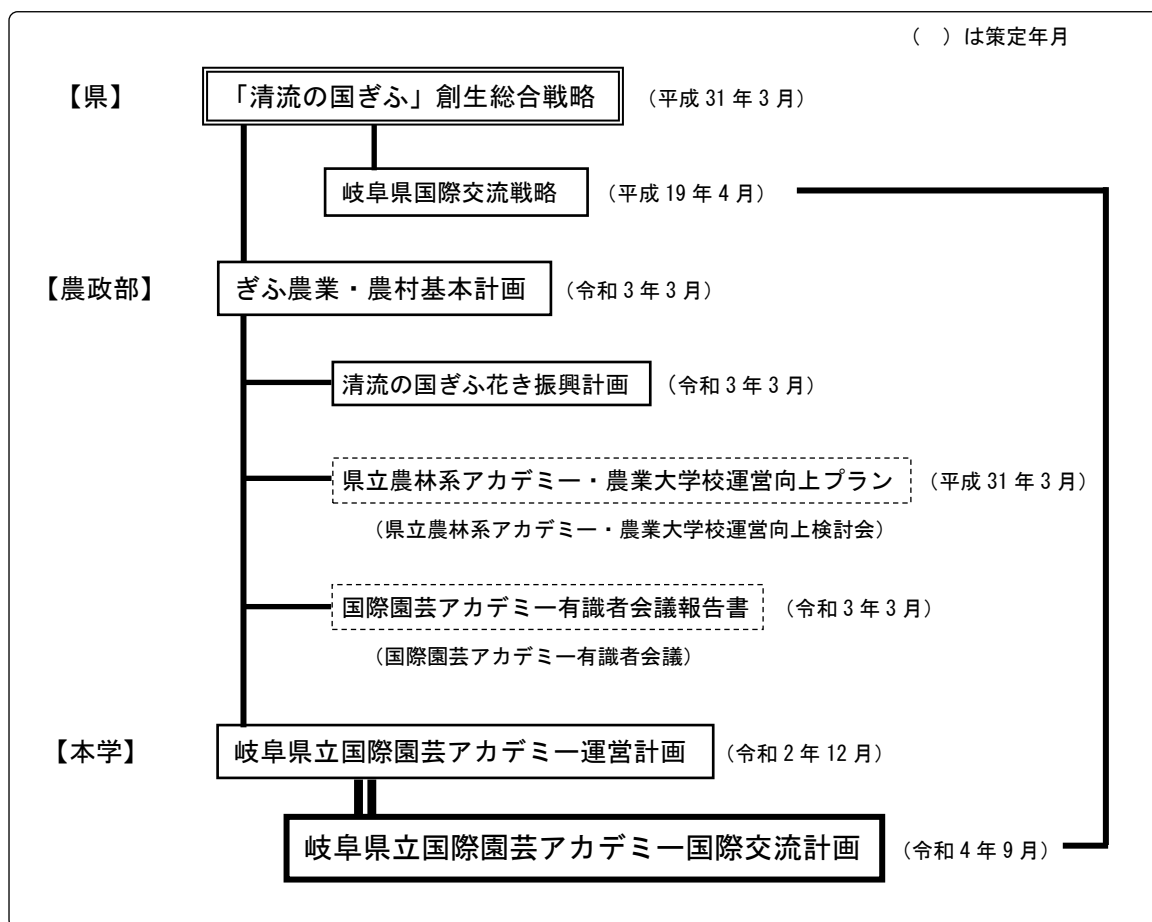
令和4年度（2022年度）から令和8年度（2026年度）までの5年間

3 計画の性格・位置付け

本計画は、「岐阜県立国際園芸アカデミー運営計画」（令和2年（2020年）12月策定）における海外の民間団体や大学との連携推進による国際性を備えた人材育成や本学の国際化の推進等、本学の国際交流に係る運営方針や重点的に取り組む施策を示すものである。また、特に「岐阜県国際交流戦略」（平成19年（2007年）4月策定）の基本姿勢及び方向性を踏まえ策定した。

「岐阜県立国際園芸アカデミー運営計画」は、県の農業・農村振興に関する最上位に位置付けられる「ぎふ農業・農村基本計画」（令和３年（2021年）３月策定）及び本県の花き振興に向け推進すべき施策を示した「清流の国ぎふ花き振興計画」（令和３年（2021年）３月策定）、「県立農林系アカデミー・農業大学校運営向上プラン」（平成31年（2019年）３月策定）、「国際園芸アカデミー有識者会議報告書」（令和３年（2021年）年３月策定）の検討経過を踏まえ策定している。

「ぎふ農業・農村基本計画」は、「『清流の国ぎふ』創生総合戦略」（平成31年（2019年）3月策定）の政策の方向性を反映するとともに整合性を保ち、当面5年間に県が重点的に取り組む施策を示すものである。



4 計画の進行管理及び評価

本計画の推進にあたっては、国際園芸アカデミー学校運営会議が中心となり教職員の施策毎の責任者を定め、関係機関との連携のもとで行っていく。

進行管理については、施策及び目標指標の達成状況を学校運営会議において取りまとめ、国際園芸アカデミー・学校関係者評価委員会において評価をいただき、評価結果を踏まえて、その効果を検証し新たな施策へとつなげていく。

情勢の変化及び各種関連計画の策定を踏まえ、必要に応じて本計画を見直すこととする。

Ⅱ 本学における国際交流の歩み

概要

本学では平成 16 年（2004 年）の開学以来、岐阜県と海外の国や自治体との覚書等に基づき、本学教職員の派遣による各種調査や研究発表、技術支援及び海外から本学への研修員・研修生の受入れを行ってきた。

また、平成 17 年（2005 年）からは本学 2 年生の海外視察研修（授業）による国際交流を行ってきた。

本学開学から令和 4 年（2022 年）までに交流のあった国々は下記のとおりである。

○これまでの交流国

区分 年	1 海外への渡航		2 海外からの受入	
	教職員	学生	研修員・研修生 出身国	来校者 出身国
	調査、研究発表 等渡航国	海外視察研 修研修先国		
平成 16 年(2004 年)	台湾			
平成 17 年(2005 年)	アメリカ	オランダ フランス		アメリカ オランダ
平成 18 年(2006 年)	ニュージーランド	オランダ イギリス		イタリア オランダ
平成 19 年(2007 年)	マレーシア 台湾	オランダ イギリス		スロバキア アフリカ諸国
平成 20 年(2008 年)	モロッコ王国 デンマーク	フランス イギリス		台湾
平成 21 年(2009 年)		イギリス	モロッコ王国	
平成 22 年(2010 年)	モロッコ王国	イギリス	モロッコ王国 中国	
平成 23 年(2011 年)		オランダ イギリス	モロッコ王国 中国	
平成 24 年(2012 年)	モロッコ王国	オランダ イギリス		
平成 25 年(2013 年)		イギリス		
平成 26 年(2014 年)		イギリス		
平成 27 年(2015 年)		イギリス		
平成 28 年(2016 年)		イギリス	ベトナム	
平成 29 年(2017 年)		イギリス	モロッコ王国	
平成 30 年(2018 年)		イギリス		
令和元年(2019 年)	フランス	イギリス		
令和 2 年(2020 年)		(国内視察)	モロッコ王国 フランス	
令和 3 年(2021 年)		(国内視察)		
令和 4 年(2022 年)	フランス	(国内視察)		

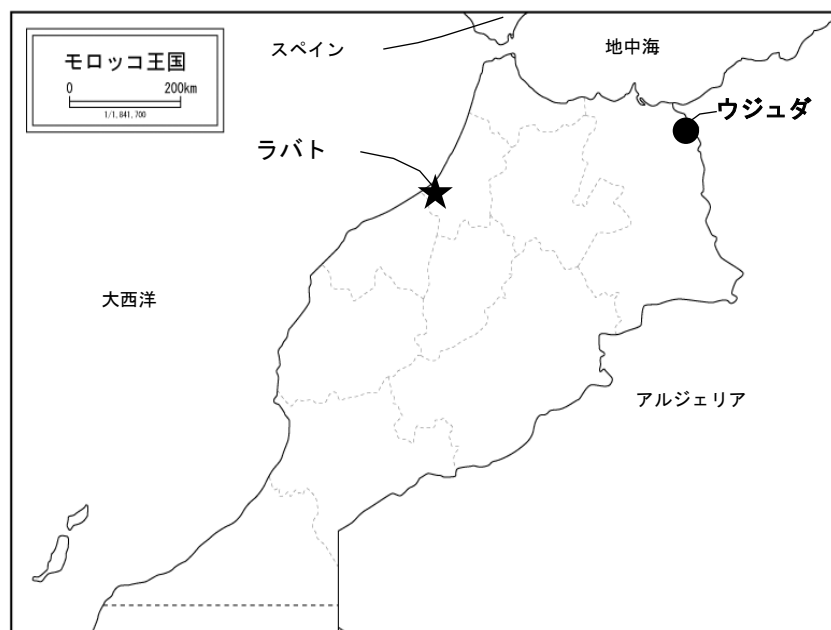
1 モロッコ王国

(1) 概要

本県では、平成 19 年(2007 年)8 月に「岐阜県とモロッコ王国ウジュダ・アンガッド府の友好交流に関する覚書」を締結し、両地域の発展に向けた相互交流の促進、技術交流を通じた人材育成の相互支援などを進めることが合意され、具体的には、緑化、再生エネルギー、防災分野等で交流が進められている。平成 30 年(2018 年)4 月には、それまでの交流に加えて、観光や園芸、地方分権の分野での交流も進める旨の追加文書が合意され、交流が深まっている。

ウジュダ・アンガッド府のウジュダは、これまで 30 年来の干ばつ、農村部からの人口流出、貧困問題などによって苦しんできた。地中海沿岸に位置するため、植物への塩害という問題もあるが、特に乾燥による水不足や砂漠化などの環境問題がウジュダ南方において深刻となっており、緑化支援を強化する必要に迫られていた。そのため、平成 20 年(2008 年)、平成 22 年(2010 年)、平成 24 年(2012 年)の 3 回、本学教職員をモロッコ王国に派遣し、現地調査を実施するとともに、緑化事業に係る土壌改良や公園における緑化等について助言を行った。

また、本学が持つ知識、技術、経験等を課題解決に役立てるため、平成 21 年(2009 年)から平成 23 年(2011 年)までの 3 カ年、本学においてウジュダ・アンガッド府研修員を受入れ、緑地帯維持管理能力向上に関する研修等を実施するとともに、平成 29 年(2017 年)、令和 2 年(2020 年)にも同府職員の受入れ研修を行う等、相互の園芸・造園分野の技術的交流を深めている。



(2) 交流実績

区分	平成 20 年 (2008 年)	平成 21 年 (2009 年)	平成 22 年 (2010 年)	平成 23 年 (2011 年)	平成 24 年 (2012 年)	平成 29 年 (2017 年)	令和 2 年 (2020 年)
派遣	6 月 教職員 1 人		□※2 2 月 教職員 1 人		●※1 1 月 教職員 2 人		
受入		●※1 10 月～11 月 府職員 1 人	●※1 9 月～12 月 府職員 1 人	●※1 9 月～11 月 府職員 1 人		◇※3 10 月 府職員 1 人	◆※4 2 月 府職員 1 人

※1● JICA「草の根技術協力事業（地域提案型）」－（緑地帯維持管理能力向上事業）

※2□ 岐阜県－モロッコ（ウジュダ・アンガット府）交流・協力関係確認事業

※3◇ CLAIR「平成 29 年度自治体国際協力促進事業（モデル事業）」

※4◆ モロッコ王国ウジュダ・アンガット府園芸担当者招へい事業

(3) モロッコ王国への派遣調査

<平成 20 年（2008 年）>

- 調査者 岐阜県立国際園芸アカデミー教授
岐阜県教育委員会教職員課課長補佐
岐阜県総合企画部国際課主査
- 期 間 平成 20 年（2008 年）6 月 21 日～6 月 29 日
- 目 的 岐阜県とウジュダ・アンガット府とで締結した友好交流に関する覚書に基づく、研修生の受入れ（JICA「草の根技術協力事業（地域提案型）」）及び JICA ボランティア派遣に関する岐阜県と JICA の事前調査

○調査先の概要

時 期	調 査 先 等
6 月 22 日	・ウダイヤ庭園（ラバト市）
6 月 23 日	・JICA モロッコ事務所（ラバト市） ・青年海外協力隊の活動現場 保健省カザ・アンファ支局、ムーレイ・ユーセフ病院
6 月 24 日	・オリエンタル州ワリ兼ウジュダ・アンガット府知事表敬訪問 ・ウジュダ市内旧産業廃棄物不法投棄現場、新ごみ処理施設
6 月 25 日	・研修生候補者の面接（ウジュダ・アンガット府庁舎） ・シディ・マルファ公園（ウジュダ市） ・ムハンマド I 世大学理学部（ウジュダ市） ・ララ・アイシャ公園（ウジュダ市） ・ウジュダ・アンガット府苗圃（ウジュダ市） ・ヤシの移植実験現場（ウジュダ市）
6 月 26 日	・教育行政の状況（ウジュダ・アンガット府庁舎） ・国民教育省ウジュダ・アンガット府支局での協議 ・ウジュダ・シディジアヌ小学校、ナイマ村ノール中学校、 アインスファー村アインスファー小学校
6 月 27 日	・青年海外協力隊の活動現場 メクネス市内の音楽学校 ・在モロッコ日本国大使館（ラバト市） ・JICA モロッコ事務所（ラバト市）

<平成 22 年（2010 年）>

- 調査者 岐阜県立国際園芸アカデミー学長
岐阜県総合企画部国際課長
岐阜県総合企画部国際課国際交流員
- 期 間 平成 22 年（2010 年）2 月 20 日～2 月 27 日
- 目 的 JICA 草の根技術協力事業の成果や進展してきている民間での草の根交流・協力などの動きを在モロッコ日本国大使館等に報告するとともに、同府との一層の交流・協力体制の樹立に向けた協議等を実施

○調査先の概要

時 期	調 査 先 等
2 月 22 日	・ 在モロッコ日本国大使館（ラバト市） ・ JICA モロッコ事務所（ラバト市） ・ 国立園芸植物研究所（ラバト市）
2 月 23 日	・ ウジュダ・アンガット府庁舎 ・ 研修候補者との面談（ウジュダ市） ・ ウジュダ・アンガット府苗圃（ウジュダ市） ・ ララ・メリエム公園（ウジュダ市） ・ シディ・ヤイハエ公園（ウジュダ市） ・ ララ・アイシャ公園（ウジュダ市） ・ オリエンタル州ワリ兼ウジュダ・アンガット府知事表敬訪問
2 月 24 日	・ ムハンマド I 世大学理学部（ウジュダ市） ・ シディ・マルファ森林公園（ウジュダ市） ・ リゾート開発地における緑地開発現場（サイディア市）
2 月 25 日	・ マルドック公園（カサブランカ） ・ アイン・スバー公園（カサブランカ） ・ トリアングル・ド・ビュー公園（ラバト市）

<平成 24 年（2012 年）>

- 調査者 緑化事業専門家派遣団
岐阜県立国際園芸アカデミー学長
岐阜県立国際園芸アカデミー准教授
再生可能エネルギー事業及び教育関係調査団
商工政策課次世代エネルギー・産業技術推進室長
総合企画部国際課主査
総合企画部国際課国際交流員
JICA 中部市民参加協力課
- 期 間 平成 24 年（2012 年）1 月 8 日～1 月 15 日
- 目 的 岐阜県立国際園芸アカデミーで、平成 21 年（2009 年）、平成 22 年（2010 年）、平成 23 年（2011 年）と 3 年間で 3 人の研修員を受入れており、研修成果の実践確認と現地での補足指導等のフォローアップ活動を実施

○調査先の概要

時 期	調 査 先 等
1 月 9 日	・ウジュダ・アンガッド府苗圃視察 ・オリエンタル州ワリ兼ウジュダ・アンガッド府知事表敬訪問 研修修了者からの緑化事業研修成果等総括プレゼンテーション ・ララ・アイシャ公園（ウジュダ市） ・府及びウジュダ市の緑地帯整備現場
1 月 10 日	・植木生産業者アフラフロル（ウジュダ市） ・サイディア及びファドサ開発区緑地帯（ウジュダ市）
1 月 11 日	・ララ・メリエム公園（ウジュダ市） ・シディ・ヤイハエ公園（ウジュダ市） ・メディナ近郊の街路樹における実践確認及び補足指導 ・バイオガス発電所（ウジュダ市） ・ゴミ廃棄場所での植林試験現場（ウジュダ市）
1 月 12 日	・ムハンマド I 世大学理学部 ・シディ・マルファ森林公園（ウジュダ市） ・ウジュダ・アンガッド府庁舎
1 月 13 日	・JICA モロッコ事務所（ラバト市） ・在モロッコ日本国大使館（ラバト市） ・ラバト市内の緑化状況、街路樹調査、シェラ遺跡、ウダイヤ庭園

(4) 受入れ研修

＜平成 21 年（2009 年）＞

○研修員 ウジュダ・アンガッド府職員 1 人

○期 間 平成 21 年（2009 年）10 月 5 日（来日）～11 月 28 日（帰国）

○研修の概要

時 期	概 要	研修場所
10 月 8 日	関係課長訪問	岐阜県庁（岐阜市）
10 月 9 日	オリエンテーション	国際園芸アカデミー（可児市）
	花き利用に係る公園視察	花フェスタ記念公園（可児市）
10 月 13 日	庭園史・庭園様式	国際園芸アカデミー（可児市）
	庭園施工管理	茶室如庵（犬山市）
10 月 14 日	生け花	国際園芸アカデミー（可児市）
10 月 15 日	施設視察	鳥取大学乾燥地研究センター（鳥取市）
	乾燥地の生態系修復（講義）	
10 月 16 日	乾燥地の土壌改良・灌漑技術（講義）	
10 月 19 日	壁面緑化施工、庭園施工管理	国際園芸アカデミー（可児市）
10 月 20 日	緑の基本計画	玉野総合コンサルタント（株）（名古屋市）
	屋上緑化見学	大島造園土木（株）（名古屋市）
10 月 21 日	特殊空間の緑化技術	国際園芸アカデミー（可児市）
	日本の庭園材料・緑化資材視察	（株）竹藤商店（小牧市）
10 月 22 日	植物管理実習	国際園芸アカデミー（可児市）
10 月 23 日	庭園施工管理	国際園芸アカデミー（可児市）
10 月 24 日	地域住民と行政との連携	坂折棚田（恵那市）
10 月 26 日	壁面緑化施工	国際園芸アカデミー（可児市）
10 月 27 日	視察	浜松モザイクカルチャー世界博

10月28日	生け花 庭園計画	国際園芸アカデミー（可児市） （株）創建（名古屋市）、個人庭園（蟹江町）
10月29日	Global Communication in Horticulture（英語の授業）に参加し学生と交流	国際園芸アカデミー（可児市）
10月30日	庭園施工管理	国際園芸アカデミー（可児市）
11月2日	壁面緑化施工、機能植栽、海外の日本庭園事例	国際園芸アカデミー（可児市）
11月4日～6日	伝統的庭園の管理	京都御所、仙洞御所、大徳寺（大徳寺本坊、真珠庵、大仙院）、慈受院、鹿苑寺（金閣寺）、龍安寺、西芳寺（苔寺）、桂離宮、銀閣寺（慈照寺）、修学院離宮、法然院（京都市）
11月9日	生物多様性と緑化 施設視察	国際園芸アカデミー（可児市） 自然共生研究センター（各務原市）
11月10日	最新のり面緑化工法（講義）	日本植生（株）（岡山県津山市）
11月11日	施設視察	日本植生（株）総合研究圃場
11月12日	生物多様性保全計画	（株）創建（名古屋市）
11月16日	研修報告会準備	国際園芸アカデミー（可児市）
11月17日	庭園施工管理	
11月18日	花き栽培、庭園施工管理	
11月19日	研修報告会準備	
11月20日	樹木苗の生産・盆栽見学	愛知県植木センター（稲沢市）
11月24日	高速道路整備における地域性種苗の生産と利用	高速道路総合技術研究所緑化技術センター（湖南市）
11月25日	研修報告会準備	国際園芸アカデミー（可児市）
11月26日	研修報告会準備	
11月27日	研究報告会・評価会	

<平成22年（2010年）>

○研修員 ウジュダ・アンガッド府職員 1人

○期 間 平成22年（2010年）9月13日（来日）～12月4日（帰国）

○研修の概要

時 期	概 要	研修場所
9月16日	学長面談、オリエンテーション	国際園芸アカデミー（可児市）
9月17日	関係課長訪問	岐阜県庁（岐阜市）
9月21日	オリエンテーション	国際園芸アカデミー（可児市）
9月22日	日本の植生、庭園史・庭園様式	
9月24日	庭園史・庭園様式 公開セミナー（モロッコの園芸事情）	
9月27日	緑のカーテン見学 園芸管理実習	フラワーパーク江南（江南市） 国際園芸アカデミー（可児市）
9月28日	学生交流、海外の日本庭園事例 都市公園見学	久屋大通公園、オアシス21、ランの館（名古屋市）
9月29日	日本庭園視察	観音院庭園、仁風閣宝隆院庭園（鳥取市）

9月30日	施設視察	鳥取大学乾燥地研究センター (鳥取市)
	乾燥地の土壌改良・灌漑技術(講義)	
10月1日	いけばな	国際園芸アカデミー(可児市)
10月4日	環境計画学演習	セラミックパーク MINO(多治見市)
	都市緑化学・実習	日本ライン花木センター(可児市)
10月5日	環境原論・実習	国際園芸アカデミー(可児市)
10月6日	花き園芸学各論(バラ)	
	庭園の管理	花フェスタ記念公園(可児市)
10月7日	日本の公園制度(都市公園)、園芸管理実習	国際園芸アカデミー(可児市)
10月8日	地域住民と行政との連携	坂折棚田(恵那市)
10月10日 ～12日	伝統的庭園の管理	重森三玲庭園美術館、南禅寺 (南禅院、南禅寺本坊方丈庭園、天授庵、金地院庭園)、三千院、宝泉院、東福寺(方丈庭園、芬陀院、霊雲院)、京都芳樹園、松尾大社、二条城二の丸庭園、神泉苑(京都市)
10月13日	花き園芸学各論(バラ)、造園総合実習	国際園芸アカデミー(可児市)
10月15日	造園総合実習	(株)竹藤商店(小牧市)
	いけばな	国際園芸アカデミー(可児市)
10月18日	都市緑化学・実習	
10月19日	学生交流	
10月20日	花き園芸学各論(バラ)、	
	特殊空間緑化実習	県立多治見病院(多治見市)
10月21日	ビオガーデン、園芸管理実習	国際園芸アカデミー(可児市)
10月22日	イベントディスプレイ(岐阜県農業フェスティバルの出展施工)	岐阜市
10月24日	岐阜県農業フェスティバルの見学	岐阜県庁周辺(岐阜市)
10月25日	環境緑化学(のり面)、都市緑化学・実習	国際園芸アカデミー(可児市)
10月26日	のり面緑化見学	東海環状土岐南 IC(土岐市)、可茂北部地区大那木集落道(八百津町)、みのかも健康の森(美濃加茂市)
10月27日	オープンガーデン、造園総合実習	国際園芸アカデミー(可児市)
10月28日	植物文化、園芸管理実習	
10月29日	都市公園見学	河川環境楽園(各務原市)、138タワーパーク(一宮市)
	庭園計画	国際園芸アカデミー(可児市)
11月1日	都市緑化学・実習	
11月2日	環境原論・実習(高速道路の緑化、重要文化的景観)	高速道路総合技術研究所緑化技術センター(湖南市)、水郷(近江八幡市)
11月4日	環境計画学演習	セラミックパーク MINO(多治見市)
11月5日	庭園計画	名古屋城二の丸庭園、白鳥庭園(名古屋市)

11月6日	環境計画学演習	セラミックパーク MINO (多治見市)
11月8日	園芸管理実習、都市緑化学・実習	国際園芸アカデミー (可児市)
11月9日	学生交流、環境原論・実習	
11月10日	庭園計画、造園総合実習	
11月11日	植物文化、園芸管理実習	
11月12日	環境保全視察	
11月15日	オープンガーデン見学	個人庭園 (可児市)
	景観保全視察	伝統的建築物群保存地区 (美濃市)
11月16日	屋上緑化の最新技術	東邦レオ (株)、阪急百貨店大井町駅前店、J R 恵比寿駅、明治神宮外苑 (東京都)
11月17日	街路樹管理	東京ガス、J R 東京駅、日比谷公園 (東京都)
11月18日	都市緑化学、園芸管理実習	国際園芸アカデミー (可児市)
11月19日	花産業の動向	岐阜生花市場 (岐阜市)
11月24日	報告会準備	国際園芸アカデミー (可児市)
	伝統的庭園の管理	茶室如庵 (犬山市)
11月25日	植物文化	国際園芸アカデミー (可児市)
	都市公園見学	愛・地球博記念公園 (長久手市)
11月26日	報告会準備	国際園芸アカデミー (可児市)
	いけばな	
11月30日	盆栽見学・講習	芳津園 (稲沢市)
12月1日	都市公園見学	徳川園、白川公園 (名古屋市)
12月2日	研究報告会・評価会	国際園芸アカデミー (可児市)
	関係部長訪問	岐阜県庁 (岐阜市)
12月3日	学長面談	国際園芸アカデミー (可児市)

<平成23年(2011年)>

○研修員 ウジュダ・アンガッド府職員 1人

○期 間 平成23年(2011年)9月12日(来日)～11月12日(帰国)

○研修の概要

時 期	概 要	研修場所
9月15日	学長面談、施設案内、オリエンテーション	国際園芸アカデミー (可児市)
9月16日	県庁訪問 (総合企画部、農政部)	岐阜県庁 (岐阜市)
	公開セミナー「モロッコの造園と造園業界」	国際園芸アカデミー (可児市)
9月17日 ～19日	緑化技術を利用した造園作品制作	坂折棚田 (恵那市)
9月20日	日本の樹木、ハーブの利用 (園芸利用論)	国際園芸アカデミー (可児市)
9月26日	自然共生とビオトープ	坂折棚田 (恵那市)
9月27日	庭園史・庭園様式、園芸管理実習	国際園芸アカデミー (可児市)
9月28日	都市における街路樹診断、樹木学概論	街路樹 (岐阜市)、根尾の民有林 (本巣市)
9月29日	施設の視察	鳥取大学乾燥地研究センター (鳥取市)
9月30日	乾燥地の土壌改良・灌漑技術 (講義・実習)	

10月1日	日本庭園視察	観音院庭園、二風閣宝隆院庭園 (鳥取市)
10月3日	花の流通と産業	愛知豊明花き地方卸売市場(豊明市)、園芸店(名古屋市)、千代田農園(稲沢市)
10月4日	ビオトープの計画、施工	国際園芸アカデミー(可児市)
10月5日	特殊空間緑化実習	
	公園での花き利用	花フェスタ記念公園(可児市)
10月6日	ビオトープの施工	国際園芸アカデミー(可児市)
	現代の日本庭園	白鳥公園、名古屋城(名古屋市)
10月7日	景観保全視察	伝統的建築物群保存地区(高山市)
10月11日	盆栽実習	芳津園(稲沢市)
10月12日	特殊空間緑化実習、庭園計画	国際園芸アカデミー(可児市)
10月13日	造園総合実習	花フェスタ記念公園茶室(可児市)
	芝生の管理とゴルフ場	ゴルフ場(本巣市)
10月14日 ～16日	都市内の緑化と屋上緑化技術	パソナグループ本部、東邦レオ(株)(東京都)、ソラドファーム戸田(埼玉県)、Dila西荻窪店、ルミネ荻窪店、アトレ恵比寿店、リビエラ南青山、浜離宮恩賜庭園(東京都)、ラチッタデッラ川崎、ルミネ横浜店(神奈川県)
10月17日	庭園計画、園芸管理実習	国際園芸アカデミー(可児市)
	茶庭視察	有楽苑「如庵」(犬山市)
10月19日	特殊空間緑化実習、ビオトープの施工	国際園芸アカデミー(可児市)
10月20日	園芸療法と園芸福祉	
	園芸療法実習	多治見病院(多治見市)
10月21日	室内園芸装飾実習(岐阜県農業フェスティバル)	岐阜市
10月23日 ～25日	伝統的庭園の管理	実相院、上賀茂神社、正伝寺、光悦寺、天龍寺、宝厳院、弘源寺、渡月橋、京都芳樹園、大徳寺(孤篷庵、高桐院、聚光院、瑞峰院、龍源院)(京都市)
10月26日	特殊空間緑化実習、庭園計画	国際園芸アカデミー(可児市)
10月28日	研修報告会準備、植物文化	
	パークマネジメント	可児市役所、可児やすらぎの森(可児市)
10月29日	公園緑地視察	愛・地球博記念公園(長久手町)、東山動植物園(名古屋市)
10月31日	研修報告会準備、植物文化、園芸管理実習、海外の日本庭園事例	国際園芸アカデミー(可児市)
11月1日	研修報告会準備、日本園芸文化論	
	屋上緑化、緑地のコンピュータによる管理	丸紅ビル(名古屋市)、名古屋市役所
11月2日	いけばな、ビオトープの施工	国際園芸アカデミー(可児市)

11月4日	ビオトープの施工	
11月8日	造園総合実習、研修報告会準備	
11月9日	研修報告会準備	
	オープンガーデン視察	個人邸（各務原市）
11月10日	研修報告会・評価会、関係者面談	国際園芸アカデミー（可児市）
11月11日	県庁訪問（総合企画部、農政部）	岐阜県庁（岐阜市）

<平成29年（2017年）>

○研修員 ウジュダ・アンガッド府職員 1人

○期 間 平成29年（2017年）10月10日（来日）～10月21日（帰国）

○研修の概要

時 期	概 要	研修場所
10月11日	県都市公園課職員が公園施策、取組み方針、コンセプトを説明	岐阜県庁（岐阜市）
10月12日	視察	花フェスタ記念公園（可児市）
10月13日	花修景実習受講、研修員による講義「ウジュタ市の緑の遺産」	国際園芸アカデミー（可児市）
10月16日	日本庭園実習	
10月17日	桜の移植方法についての講義、苗木移植実習	（一社）岐阜県造園緑化協会（可児市）
	現地視察	日本ライン花木センター（可児市）、山人山荘の日本庭園（可児市）
10月18日	造園施工・管理実習、研修報告会準備	岐阜県百年公園（関市）
10月19日	現地視察	国営木曽三川公園 138 タワーパーク（一宮市）、河川環境楽園、各務原市総合運動公園、学びの森、瞑想の森（各務原市）
10月20日	研修報告会	国際園芸アカデミー（可児市）

<令和2年（2020年）>

○研修員 ウジュダ・アンガッド府職員 1人

○期 間 令和2年（2020年）2月3日（来日）～2月7日（帰国）

○研修の概要

時 期	概 要	研修場所
2月4日	視察	（株）岐孝園（瑞穂市）、花き流通センター（北方町）
2月5日	視察	美濃和紙の里会館（美濃市）、うだつの上がる町並み（美濃市）
	モロッコ文化交流会への参加 在岐阜モロッコ王国名誉領事面談	美濃加茂国際交流協会（美濃加茂市）
2月6日	造園施工・管理実習受講 学長との意見交換	国際園芸アカデミー（可児市）
	視察	花フェスタ記念公園（可児市）
2月7日	県観光国際局長との面談	岐阜県庁（岐阜市）

(5) 成果

①モロッコ王国現地調査

<平成 20 年（2008 年）>

オリエンタル州ワリ兼ウジュダ・アングアット府知事を表敬訪問し、府としての岐阜県との交流の 3 つのテーマ、すなわち、「岐阜パークの建設」、「府の研修員の岐阜県（本学）への派遣」、「岐阜県からウジュダへの教員の派遣」が確認できた。

府は、「園芸スタッフの養成を始めたばかりであり、府の園芸の中堅幹部を岐阜県に送るので支援をしてほしい」とのことで、あらかじめ府が選考、推薦した緑化、花木・園芸の専門家 2 人の候補者について面接を実施した。毎年 1 人を 3 年間岐阜県に派遣し、十分な研修を受けるため 1 か月程度を想定しているが 3 か月でも問題はないとのことであった。

ムハンマド I 世大学理学部において、大学担当教授が「園芸分野における人材育成と研究」と題して、本学との共同研究、交流が可能な分野である観賞植物に関する研究について特に重点をおき講演され、研究交流を推進することについて議論を行った。

<平成 22 年（2010 年）>

平成 21 年（2009 年）から実施している JICA 草の根技術協力事業（地域提案型）「緑地帯維持管理能力向上事業」は、単なる国際技術協力にとどまらず、友好交流にも大きく貢献しており、成果及び現地ニーズに応えるための今後の計画について、在モロッコ王国日本大使館及び JICA モロッコ事務所に説明することができた。

オリエンタル州ワリ兼ウジュダ・アングアット府知事からは、「日本とモロッコ王国の草の根交流が広がっていくことが両国間の理解や観光産業の発展につながる。モロッコ王国の灌漑率は 10%程度しかない。農業はモロッコ王国の基幹産業であり、この分野での案件発掘には異論はない」ことを確認した。

府において、本学学長から平成 20 年（2008 年）の本学への研修員の功績を報告するとともに、続く研修員のインタビューを実施した。平成 22 年（2010 年）と平成 23 年（2011 年）の本学での研修テーマは、モロッコ王国で流行している日本庭園、地球温暖化防止に役立つ技術（グリーンカーテンや屋上緑化等）などモロッコですぐに役立つ技術の習得を希望された。

<平成 24 年（2012 年）>

本学で受入れた府の研修員（3 年間で 3 人）の研修成果の実践確認と現地での補足指導等のフォローアップ活動を行った。

本学で受入れた研修員の案内で府苗圃にて、府内の緑化のため繁殖・育成されている樹木等を視察し、研修状況の確認、補足指導を行った。ウジュダ市の緑地帯整備現場において街路樹と側道緑地帯の整備状況を視察、調査し、点滴かんがい設備の問題点について指導、意見交換を行った。

ムハンマド I 世大学理学部において、緑地、園芸に関する研究、人材交流について協議した。特に平成 21 年（2009 年）からスタートされている 3 年過程の園芸に特化したコースの学生について、本学での研修を希望された。また、平成 21 年（2009 年）に受入した研修員が大学において、本学をはじめ、日本で研修した内容について講義を担当されている。

府はこれまでの交流を評価しており、今後も交流を継続したいとの意向を確認した。

②受入れ研修

覚書締結を契機として、岐阜県と JICA では、研修員の受入れ及び専門家の派遣を実施する事業「モロッコ王国ウジュダ・アンガッド府における緑地帯維持管理能力向上事業」を平成 21 年度（2009 年度）から平成 23 年度（2011 年度）にかけて実施し、3 カ年の間にウジュダ・アンガッド府の緑化担当技術者 3 人を本学で受入れることで、技術交流を支援した。研修にあたっては研修員にとって実のあるものとなるよう、研修項目に沿った綿密なスケジュールを組み実施した。

研修の成果を具体的なアクションプランとして計画し、モロッコ王国において、緑地帯の維持管理など一部を実行している。

研修員は、帰国後、ムハンマド I 世大学において研修成果を盛り込んだ講義を実施するとともに、研修時に観た日本庭園を参考に庭園を整備するなど、自国で活躍されている。

平成 29 年度（2017 年度）の研修は、本県の緑化政策、公園の先進的緑化工法・技術、管理手法等について、座学及び現場実習等を実施することにより、ウジュダ・アンガッド府における造園・公園整備等の緑化政策を強化するための技術・知識を提供することができた。また、モロッコ王国の都市公園整備等の講義を依頼し、本学の学生や専任教員等がモロッコ王国側の取組みについて学ぶことができた。これらにより、本県とウジュダ・アンガッド府との交流の礎となる人的な信頼関係を構築することができた。

令和 2 年度（2020 年度）の研修は、本県の花き生産企業や花き流通関係施設などの視察を実施した。日本の園芸はモロッコ王国と比較して、管理が丁寧で、本県は PR や販売方法が上手とのことであった。また、本学の教員（スペシャリスト）にウジュダに来ていただき、大学での講義や行政機関との情報交換、技術の共有を行うことを望まれた。

2 フランス

(1) 概要

本県との交流では、平成 20 年（2008 年）の日仏交流 150 周年を機に「フランス・岐阜／地域交流プログラム」が策定され、平成 31 年（2019 年）には第 3 期「フランス・岐阜／パートナーシップ」をフランス大使館と共同で発表し、さらなる交流が進められている。

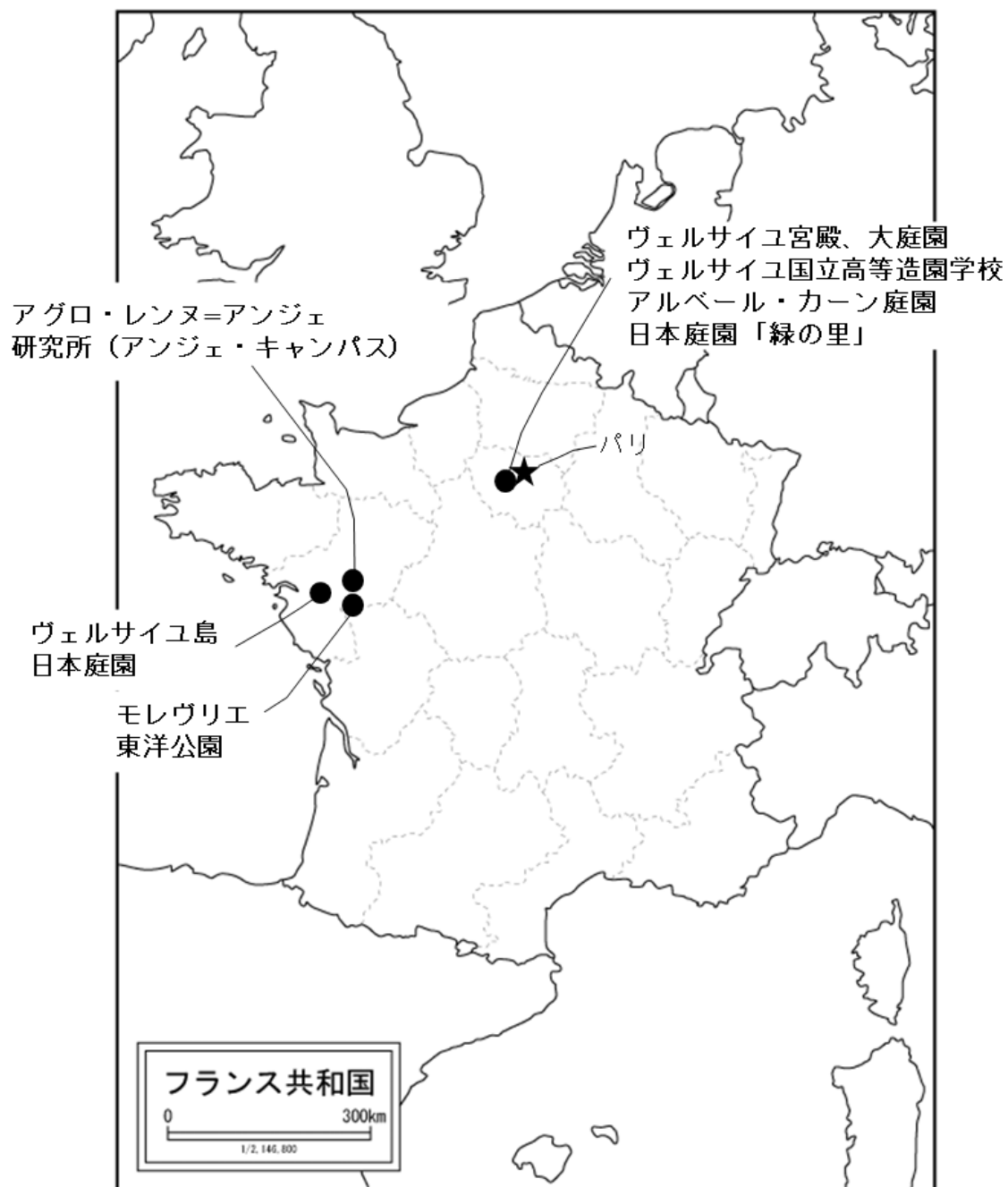
フランスは、17 世紀から 18 世紀にかけて発達したヴェルサイユ宮殿庭園をはじめとする多くのフランス式庭園がみられ、また、ペイザジスト（paysagiste = ランドスケープアーキテクト）や造園系デザイナー（環境デザイナー）を養成する高等職業教育校（エコール・ダルキテクテュール・エ・ド・ペイザージュ（Écoles d'architecture et de paysage））など国際的に著名な教育機関が多くあり、本学の国際交流や国際的な感覚を持つ人材育成にとって大変重要な場所である。

国際的に著名なフランス式庭園の歴史や管理方法等を調査するとともに、教育機関において学校運営体制やカリキュラム編成、社会人教育の考え方について学び、今後、人的交流や継続的な意見交換を通して本学の国際交流レベルを高めるとともに、国際的な視野を持った学生や教職員の人材育成につなげる必要がある。そのため、令和元年（2019 年）及び令和 4 年（2022 年）の 2 回、ヴェルサイユ国立高等造園学校やヴェルサイユ宮殿庭園等に本学教職員を派遣し、現地調査及び調査先教育機関の学長、教員等と面談を実施するとともに、技術者交流等を行った。令和 2 年（2020 年）には、ヴェルサイユ国立高等造園学校の学生 2 人を本学に受入れるなど、交流を進めている。

(2) 交流実績

区分	令和元年 (2019 年)	令和 2 年 (2020 年)	令和 4 年 (2022 年)
派遣	12 月 本学教職員 2 人 ・ヴェルサイユ宮殿庭園 ・ヴェルサイユ国立高等造園学校 ・アグロ・レンヌ＝アンジェ研究所		5 月～6 月 本学教職員 1 人 ・ヴェルサイユ国立高等造園学校 ・モレヴリエ東洋公園 ・アルベル・カーン庭園 等
受入		3 月 ヴェルサイユ国立高等造園学校の学生 2 人	

○フランスでの主な調査先



(3) フランスへの派遣調査及び技術者交流

<令和元年（2019 年）>

○調査の概要

区 分	概 要	
調査日	令和元年(2019 年)12 月 9 日～12 月 10 日	
調査者	国際園芸アカデミー学長 国際園芸アカデミー教務課長	
案内人	ヴェルサイユ国立高等造園学校付属研究所(LAREP)所属研究員	
調査先	12 月 9 日	①ヴェルサイユ大庭園
		②ヴェルサイユ国立高等造園学校 (ENSP)
	12 月 10 日	③アグロ・レンヌ=アンジェ研究所 アンジェ・キャンパス

○調査先毎の調査目的

①ヴェルサイユ大庭園

- ・フランス式庭園の歴史や管理方法等を調査するとともに、本学との交流及び宮殿庭園管理を経験できる短期インターンシップの実施検討などを行う。

②ヴェルサイユ国立高等造園学校 (ENSP)

- ・フランスの高等教育機関に位置付けられ、国土レベルでの景観やランドスケープを考える人材を育成する学校であり、その方針の聞き取りや、本学への研修生受入れの検討などを行う。

③アグロ・レンヌ=アンジェ研究所 アンジェ・キャンパス

- ・アンジェとレンヌというフランス西部に 2 つのキャンパスを有する高等教育機関であり、このうちアンジェ・キャンパスの専門分野が園芸、造園、景観科学であり本学の専攻コースと共有部分が多いこと、また学生の多くが海外留学するなど海外との交流が盛んであることなどから、本学との今後の連携先の一つとしての検討を行う。

○調査先の概要

【ヴェルサイユの宮殿と大庭園】

パリの南西約 20 km のヴェルサイユにあるヴェルサイユ宮殿と庭園は、フランスを代表する人気観光地で 1979 年に世界遺産に登録された。

ヴェルサイユ宮殿は、フランス絶対王政時代を象徴する壮麗な宮殿でブルボン王朝の王ルイ 14 世が自らの宮殿として建造。1661 年より建設に着手し、1682 年に正式に王宮が移されて、政治の中心となった。内部の豪華な彫刻や室内装飾は壮大な建造物を引き立て、バロック様式の建築と造園が見事に調和している。

ヴェルサイユ大庭園は、ヴェルサイユ宮殿の裏側に広がる約 100 万 m² の大庭園でフランス式庭園の最高傑作といわれる。ルイ 14 世自ら「庭園案内の手引き」を書くほど自慢した庭園で、造園家アンドレ・ル・ノートルの指揮の下に造営、彼の死後マンサールに引き継がれ何度か改修され、1661～1700 年までの約 40 年という長い歳月をかけて完成された。

【ヴェルサイユ国立高等造園学校】(ENSP, Ecole Nationale Supérieure du Paysage)

ヴェルサイユ国立高等造園学校は、フランス農業省等が所管するグランゼコール（テクノクラート（技術官僚）養成校として認識されている高等教育機関）である。

ヴェルサイユの国立高等園芸学校 (ENSH) が 1995 年に改組したのが現在の学校で、フランスの国家的ペイザジスト（都市空間や造園空間等の設計、構築）の大半を輩出した少数精鋭の名門校である。

敷地内にはルイ 14 世の食卓のために造られた菜園「王の菜園」がある。1678 年から 1683 年にかけて、ルイ 14 世の庭師で農学者でもあったジャン＝バティスト・ラ＝カンティニーの監督の元、王の第一造園家、ジュール・アルドゥアン＝マンサールによって建設された。

【アグロ・レンヌ＝アンジェ研究所 (L'Institut Agro Rennes-Angers) アンジェ・キャンパス】

アグロ・レンヌ＝アンジェ研究所は、農業、食品化学、園芸、造園、景観科学を専門とする高等教育機関であり、このうちアンジェ・キャンパスには園芸、造園、景観科学に関する専門分野が設置され、もう一方のレンヌ・キャンパスに、農業、食品化学に関する専門分野が設置されている。

アンジェ・キャンパスは、1971 年に園芸のエンジニア育成を目的に開校した園芸作業技術者学校が前身となり、1991 年には国立園芸研究所 (ENITHP) が設立、1998 年にヴェルサイユ宮殿の国立高等園芸学校 (ENSH) と併合し、ヨーロッパ最大の園芸及び種子生産地域であるアンジェの地に、国立園芸・ベイヤージュ研究所 (INHP) が設立された。

レンヌ・キャンパスは、1830 年ロワール・アトランティック県に、グランジュアン農業学校が開校したのが始まりで、1896 年にレンヌに移転され、国立農業訓練技術者学校として開校、幾度の改編を経て 2004 年に農業及び農業食品コースを施設内に集約した。

2008 年、アンジェとレンヌの各学校が統合し、アグロ・レンヌ＝アンジェ研究所 (L'Institut Agro Rennes-Angers) として現在に至っている。

○調査結果

①ヴェルサイユ大庭園

区 分	概 要
応対者	主任、副主任（宮殿専属技師）
調査内容	ヴェルサイユ大庭園の管理方法及び体制について
調査結果	○管理方法 <芝生> Vista（通景線）が通る箇所の芝生付近は自動灌水で、来園者のいない夜間の時間帯に灌水を行っている。芝刈りは手動式芝刈り機（週1回）と乗用芝刈り機（2週間に1回）の併用で実施している。 <ボックス栽培> 柑橘系植物が植えられた、特徴的な修景物で、冬季はオランジェリー（植物を冬越しさせる建築物）に移動し養生する。ボックスの底にはプラタナスの落葉が敷き詰められており、排水性を高めている。 ○管理体制 職員と、期間雇用の者でチーム体制が敷かれ、メンバーを入れ替えながら様々な業務に対応できるようにしている。

②ヴェルサイユ国立高等造園学校（ENSP）

区 分	概 要
応対者	王の菜園責任者、担当教員
調査内容	学校運営・教育体制について
調査結果	○規模 1学年70人程度で3年制。 ○学校運営及び教育体制 景観、ランドスケープからアプローチした学校で、造園家とは何かというランドスケープの根本を学んでいる。 学生が取得する資格には、DEP (Le diplôme d'État de paysagiste 国家景観設計士)、グリーンキーパー、灌水、農薬管理者などがある。 本科コースと社会人コースがあり、本科コースでは、国土レベルでランドスケープを設計する。社会人コースには年齢制限はない。 卒業後は、起業もしくは大手設計事務所に勤めたのちに独立というケースが多い。

③アグロ・レンヌ=アンジェ研究所（アンジェ・キャンパス）

区 分	概 要
応対者	アンジェ・キャンパス校長、国際交流事務職員、造園専攻教員、教養課程教員
調査内容	学校運営・教育体制について
調査結果	○学校運営・教育体制 修士課程には4つの分野があり、このうちアンジェのキャンパスには「①園芸」と「②造園」、レンヌのキャンパスには「③農学」と「④食品化学」が設置されている。 ○インターンシップ 3年次に2か月間程度、4年次に3か月間程度実施される。

○成果

ヴェルサイユ国立高等造園学校付属研究所(LAREP)所属研究員とともに3箇所を視察したことで、宮殿庭園の管理や各教育機関の学校運営全般の詳細について知ることができた。

①ヴェルサイユ大庭園

多くの来園者が訪れる歴史的宮殿庭園であり、そうした状況下で適切に管理しなければならないことから、ガーデナーとして相当高いレベルが求められることが分かった。

本学の学生が短期インターンシップ的な位置づけで宮殿庭園の管理を経験できれば本人にとって極めて貴重な経験となる。2者間の交流としても重要である。体験中心なので、学生に積極性があれば仏語のレベルに関係なく充実したものとなるのではないかと考えられる。課題としては、滞在費等資金面などがあげられる。

②ヴェルサイユ国立高等造園学校

造園学を中心とした国立のアートスクールで、社会人教育があることなど、本学との共通点が多いことが分かった。また、国土レベルで景観やランドスケープを考えることができる人材を育成しようとする意欲が高いこと、日本の文化・庭園に興味を抱く学生が多いことが分かった。

ヴェルサイユ国立高等造園学校付属研究所(LAREP)所属研究員を介して、本学への研修の受入れの可能性が広がったと言える。

③アグロ・レンヌ=アンジェ研究所 アンジェ・キャンパス

アンジェとレンヌそれぞれに特色ある専攻コースがあり、アンジェ・キャンパスは全校学生数450人で留学生も多数であることなど、アカデミックで国際色豊かな印象であった。本学と比較するには規模が大きすぎるが、全学生数の1割が留学するなど海外との交流が盛んで国際的に高いレベルの学校であることが分かった。

本学との連携交流を進めるためには、もう少し学校の実態を知る必要があると思われる。

今後もヴェルサイユ国立高等造園学校付属研究所(LAREP)所属研究員を通じて、カリキュラム編成や社会人教育の考え方やそれぞれの取組みや課題について意見交換を行い、継続的に交流する必要がある。

<令和4年（2022年）>

○調査及び技術者交流の概要

区 分	概 要	
派遣日	令和4年(2022年)5月28日～6月5日	
派遣者	国際園芸アカデミー学長 ほか全国1級造園施工管理技士の会員等	
派遣先	5月29日	カルーゼル庭園（パリ市）
		チュイルリー公園（パリ市）
		シャンゼリゼ通り（パリ市）
		凱旋門（パリ市）
		ヴェルサイユ宮殿（ヴェルサイユ市）
		ヴェルサイユ大庭園（ヴェルサイユ市）
	5月30日	ヴェルサイユ国立高等造園学校（ヴェルサイユ市）
		王の菜園（ヴェルサイユ市）
		モレヴリエ東洋公園（モレヴリエ市）
	5月31日	モレヴリエ東洋公園「欧州日本庭園協会設立事業」ワークショップ（モレヴリエ市）
	6月1日	欧州日本庭園協会ネットワーク設立会議（モレヴリエ市）
		ナント市植物園
		ラ・マシン
	6月2日	ヴェルサイユ島日本庭園 庭園管理ワークショップ（ナント市）
	6月3日	アルペール・カーン庭園 庭園管理レクチャー・ワークショップ（ブローニュ・ビランクール市）
		日本庭園「緑の里」（ジョイ＝アン＝ジョザス市）
	6月4日	ビュットショーモン公園（パリ市）

○目的

欧州日本庭園協会の設立にあわせて実施が計画されているワークショップ等に、一員として加わり、日本庭園文化について、フランスを中心とする欧州の技術者に伝承する。また、ヴェルサイユやシャンゼリゼに見られるように、庭園や街路空間において継承されている伝統的で独自の造園文化を調査する。

あわせて、ヴェルサイユ国立高等造園学校を訪問し、本学との連携・交流先となるよう調整を進めることを目的とする。

○成果

<ヴェルサイユ国立高等造園学校>

ヴェルサイユ国立高等造園学校で1年目の校長を表敬訪問した。

校長からは、令和2年（2020年）にヴェルサイユ国立高等造園学校の学生2人を本学で受入れた時のお礼があった。また、「日本に興味を抱いている学生もいるので、コロナが落ち着いて相互交流ができる事を願っている」との発言があった。今後も情報を交換しながら交流を進めていくこととする。

<技術者交流>

○ヴェルサイユ大庭園

ヴェルサイユ大庭園の庭師チームとの交流の場を設け、日本に伝統的に伝わる剪定技法「透かし剪定」のデモンストレーションを通して、日仏両国における遺産庭園の管理方針について意見交換を行った。

○モレヴリエ東洋公園

「欧州日本庭園協会設立事業」の一環として実施されるワークショップに主要ゲストとして参加し、欧州全国から集まった日本庭園管理者や技術者を対象に参加型ワークショップを実施し、「透かし剪定」と、景石をとらえる技術を伝授した。

○ヴェルサイユ島日本庭園

ナント市緑地環境局の直営庭師チームを対象に参加型ワークショップを実施し、公共の日本庭園の管理手法を伝授した。

○アルペール・カーン庭園

若い直営庭師たちを対象に参加型ワークショップを実施し、日本庭園を管理する上で重要な考え方や、造園技術の基本を伝授した。

○日本庭園「緑の里」

修復事業が試みられている現場を視察し、復旧工事の基礎計画の構想・提案を実施した。

(4) ヴェルサイユ国立高等造園学校学生の本学での受入れ研修

<令和2年（2020年）>

○研修生 ヴェルサイユ国立高等造園学校の学生2人

○期 間 令和2年（2020年）3月16日

○研修の概要

時 期	概 要	研修場所
3月16日	国際園芸アカデミーの概要説明 学内施設案内	国際園芸アカデミー（可児市）
	学外実習フィールド視察	花フェスタ記念公園（可児市）

○成果

令和元年（2019年）12月に本学教職員が実施したヴェルサイユ国立高等造園学校の視察を機に、その3か月後、同校の学生の受入れ研修が実現した。

本学での研修期間は、当初、令和2年（2020年）3月16日から3月27日までの予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により3月16日のみの受入れとなった。

海外の園芸学校に在籍する学生を初めて受入れたことは本学にとって貴重な経験となった。今後、学生や教職員が活発に相互交流できるよう連携を強化していく。

3 中国

(1) 概要

本県では、昭和 63 年（1988 年）6 月 21 日に岐阜県庁にて中国江西省との「友好県省と提携に関する協定書」が調印され、「健康」「農林業」「文化」「技術協力」「福祉」「青少年」「県議会」「市町村」等幅広い分野で、総合的友好交流を推進することが合意された。

岐阜県・中国江西省友好提携 20 周年を機に、平成 20 年（2008 年）11 月に「岐阜県園芸特産振興会花き部会と江西省花卉協会との花卉産業についての交流促進覚書」が締結され、花き分野における経済交流の核となるパートナーを育成するため、覚書に基づく交流事業として、同省花き業界の将来を担う若手研修員を招き、本学や岐阜県内の花き関連企業等で研修を行った。

本県は、平成 22 年度（2010 年度）と平成 23 年度（2011 年度）にそれぞれ 1 人、5 か月程度の期間の研修が計画され、本学では平成 22 年度（2010 年度）は 6 日間、平成 23 年度（2011 年度）は 3 日間研修員を受入れた。

研修は、「切花・鉢物の鮮度保持」「植物の生活環」「育種」「植物生長調節剤の種類と利用」「農薬と取扱い」「化学肥料と施肥設計」「土壌の物理性・化学性・生物性」「卸売市場の機能と役割」「世界各地域の花き産業の現状」「種苗法」等について、講義と施設での実践を交えて実施した。また、学外で卸売市場や植木センター等を案内し、花き流通について講義した。

平成 25 年度（2013 年度）には、江西省の花卉協会リーダー 3 人が本学に来校し、本学の概要等の聴取や温室での花き生産等について視察した。



(2) 研修員の受入

<平成 22 年（2010 年）>

○研修員：大余県駅路園芸有限公司職員 1 人

○期間：平成 22 年(2010 年)7 月 1 日(来日)～平成 22 年(2010 年)11 月 30 日(帰国)

○研修日程及び概要

時 期	概 要	研修場所
7 月 8 日	県農業技術センター視察	県農業技術センター（岐阜市）
7 月 12 日～21 日	花き栽培技術・生産経営研修	(株) 岐孝園（瑞穂市）
7 月 22 日～27 日	ミニバラ栽培技術研修	(有) 新月バラ園（瑞穂市）
7 月 28 日	花き栽培施設・設備研修	(株) エノモト農材(大野町)
7 月 29 日～8 月 2 日	花き栽培技術・生産経営研修	(株) 岐孝園（瑞穂市）
8 月 3 日～7 日	ミニバラ栽培技術研修	(有) 新月バラ園（瑞穂市）
8 月 9～11 日	花き栽培技術・生産経営研修	(株) 岐孝園（瑞穂市）
8 月 12 日	園芸店視察研修	(有) 長良園芸（岐阜市）他
8 月 13 日～21 日	花き栽培技術・生産経営研修	(株) 岐孝園（瑞穂市）
8 月 23 日	花き流通の概要、種苗法、植物検疫	国際園芸アカデミー（可児市）
	施設視察	協同組合日本ライン花木センター（可児市）
8 月 24 日	切花・鉢物の鮮度保持、植物の生活環、花き育種、植物生長調節剤の種類と利用	国際園芸アカデミー（可児市）
8 月 25 日	土壌の物理性・化学性・生物性、化学肥料の種類と施肥設計	
8 月 26 日	飛騨地域切花栽培視察研修	JA ひだ花卉出荷組合（高山市）、県中山間農業研究所(飛騨市)
8 月 27 日	花き種苗の輸出入に係る研修	(株) 養本社（瑞穂市）
8 月 28 日～31 日	花き栽培技術・生産経営研修	(株) 岐孝園（瑞穂市）
9 月 1 日	カランコエ栽培技術研修	フローラナナミ（岐阜市）
9 月 2 日～8 日	花き栽培技術・生産経営研修	(株) 岐孝園（瑞穂市）
9 月 9 日	県外花き市場・花木産地視察研修	愛知豊明花き地方卸売市場（豊明市）、(株) 千代田農園、稲沢植木センター（稲沢市）
9 月 10 日	視察研修	名港フラワブリッジ（名古屋市）、荻野明男氏農場（津市）
9 月 11 日～13 日	花き栽培技術・生産経営研修	(株) 岐孝園（瑞穂市）
9 月 14 日	花き流通研修	岐阜花き流通センター農業協同組合（北方町）
9 月 15 日～24 日	花き栽培技術・生産経営研修	(株) 岐孝園（瑞穂市）
9 月 25 日	トレードフェア視察	愛知豊明花き地方卸売市場（豊明市）
9 月 27 日	花き種苗の輸出入に係る研修	(株) 岐阜種苗（岐阜市）

9月28日～10月2日	セントポーリア・ガーベラ栽培技術研修	(農)ロイヤルグリーン(本巢市)
10月4日～18日	花き栽培技術・生産経営研修	(株)岐孝園(瑞穂市)
10月19日	農薬、用土資材、切花・鉢物の鮮度保持	国際園芸アカデミー(可児市)
10月20日	花き栽培技術・生産経営研修	(株)岐孝園(瑞穂市)
10月21日～26日	ペゴニア・観葉植物栽培技術研修	(有)サンコフ(本巢市)
10月27日	切りバラ栽培技術研修	(有)市橋ローズナーセリー(瑞穂市)
10月28日～30日	国際フラワーエキスポ視察	幕張メッセ(千葉市)
11月1日	草花類鉢物栽培技術研修	(有)フローリッシュパーク(岐阜市)
11月2日	日本庭園視察研修	金閣寺、龍安寺、龍源院(京都市)
11月3日～10日	花き栽培技術・生産経営研修	(株)岐孝園(瑞穂市)
11月11日	西濃地域生産ほ場視察研修	水都園芸、暁園芸(大垣市)、久富園芸(神戸町)
11月12日	中濃地域生産ほ場視察研修	河合園芸(郡上市)、(有)丸富園芸(富加町)、小関園芸(坂祝町)
11月12日～24日	花き栽培技術・生産経営研修	(株)岐孝園(瑞穂市)
11月26日	成果報告	岐阜県庁(岐阜市)

<平成23年(2011年)>

○研修員：吉安卓力園芸投資有限公司職員 1人

○期間：平成23年(2011年)8月2日(来日)～平成23年(2011年)12月20日(帰国)

○研修日程及び概要

時 期	概 要	研修場所
8月5日	試験研究機関視察研修	県農業技術センター(岐阜市)
8月8日～18日	花き栽培技術・生産経営研修	(株)岐孝園(瑞穂市)
8月19日	郡上地域生産ほ場視察研修	ひるがのフラワーサークル(郡上市)
8月20日～22日	花き栽培技術・生産経営研修	(株)岐孝園(瑞穂市)
8月23日	切花・鉢物の鮮度保持、植物の生活環、花き育種、植物生長調節剤の種類と利用	国際園芸アカデミー(可児市)
8月24日	土壌の物理性・化学性・生物性、農薬、化学肥料の種類と施肥設計、用土資材	
8月25日	花き流通の概要、種苗法、植物検疫	国際園芸アカデミー(可児市)
	施設視察	協同組合日本ライン花木センター(可児市)

8月26日	試験研究機関視察研修	県中山間農業研究所（飛騨市）
8月26日～29日	栽培施設・設備研修	（株）岐孝園（瑞穂市）
8月30日	飛騨地域生産ほ場視察研修	J A ひだ花き出荷組合（高山市）
8月31日～9月1日	栽培施設・設備研修	（株）岐孝園（瑞穂市）
9月2日	花き種苗、宿地草類の輸出入研修	（株）岐阜種苗（岐阜市）
9月3日	花き栽培技術・生産経営研修	（株）岐孝園（瑞穂市）
9月5日	花き栽培施設・設備研修	（株）エノモト農材（大野町）
9月8日～9日	洋らん栽培研修	馬淵洋蘭（瑞穂市）
9月10日～13日	花き栽培技術・生産経営研修	（株）岐孝園（瑞穂市）
9月14日	花き流通研修	岐阜花き流通センター農業協同組合（北方町）
9月15日	花き栽培技術・生産経営研修	（株）岐孝園（瑞穂市）
9月16日	ベゴニア栽培技術研修	（有）フローラシマベ（岐阜市）
9月17日	花き栽培技術・生産経営研修	（株）岐孝園（瑞穂市）
9月19日～21日	花き栽培技術・生産経営研修	（株）岐孝園（瑞穂市）
9月22日	視察研修	キタヤ園芸（豊橋市）、（株）松浦園芸（豊橋市）
9月23日～24日	花き栽培技術・生産経営研修	（株）岐孝園（瑞穂市）
9月26日～30日	ミニバラ等栽培研修	（有）新月バラ園（瑞穂市）
10月1日	JFI トレードフェア視察	愛知豊明花き地方卸売市場（豊明市）
10月3日～7日	セントポーリア等栽培研修	（農）ロイヤルグリーン（本巣市）
10月8日	岐阜県花き品評会視察研修	花フェスタ記念公園（可児市）
10月10日～12日	花き栽培技術・生産経営研修	（株）岐孝園（瑞穂市）
10月13日～15日	国際フラワーエキスポ視察	幕張メッセ（千葉市）
10月17日～22日	花き栽培技術・生産経営研修	（株）岐孝園（瑞穂市）
10月24日～28日	ベゴニア栽培研修	（有）サンコフ（本巣市）
10月29日～11月1日	花き栽培技術・生産経営研修	（株）岐孝園（瑞穂市）
11月2日	切バラ栽培技術研修	（有）市橋ローズナーセリー（瑞穂市）
11月4日	草花類鉢物栽培研修	（有）フローリッシュパーク（岐阜市）
11月5日～21日	花き栽培技術・生産経営研修	（株）岐孝園（瑞穂市）
11月8日	花木類栽培技術研修	（株）養本社（瑞穂市）
11月9日～21日	花き栽培技術・生産経営研修	（株）岐孝園（瑞穂市）
11月22日	カランコエ栽培研修	フローラナナミ（岐阜市）
11月24日～25日	洋らん栽培研修	馬淵洋蘭（瑞穂市）
11月26日～29日	花き栽培技術・生産経営研修	（株）岐孝園（瑞穂市）

11月30日	西濃地域生産ほ場視察研修	岐阜洋らんセンター（垂井町）、暁園芸、水都園芸（大垣市）、（有）プロメリアギフ（海津市）
12月1日～5日	花き栽培技術・生産経営研修	（株）岐孝園（瑞穂市）
12月6日	可茂地域生産ほ場視察研修	（有）丸富園芸（富加町）、オグリ（坂祝町）、高木園芸、日本ライン花木センター（可児市）
12月7日～10日	花き栽培技術・生産経営研修	（株）岐孝園（瑞穂市）
12月14日	成果報告	岐阜県庁（岐阜市）

(3) 成果

研修を修了した研修員は、本学及び県内の花き生産施設等での研修を通じて、「商品としての品質に対する厳しい姿勢や高度な技術、整備された流通体制を学ぶことができたことが大きな成果であった」とのことであった。

本研修が行われて以降、江西省生産者を対象にした岐阜県の流通ノウハウや生産者の経営理念を紹介するセミナーの江西省での開催（平成24年（2012年）11月、平成25年（2013年）2月）や、清流の国ぎふ大商談会に江西省の花きバイヤー2名を招聘し県産花きをPR（平成28年（2016年）3月）、さらには江西省花卉協会35人を岐阜花き流通センター内覧会に招いてビジネス機会の創出を図る（平成29年（2017年）2月）など、両県・省の交流機会が加速するきっかけとなった。

(4) 江西省とのその他の交流

① 本学教職員による江西省での講演等

時 期	内 容
平成21年（2009年）12月	自治体国際協力促進事業の江西省での事前調査
平成25年（2013年）2月	自治体国際協力促進事業（モデル事業）で江西省を視察、花きセミナーで講演
平成25年（2013年）11月	岐阜県・中国江西省友好提携25周年記念事業により江西省を訪問し、花きセミナーで講演

② 江西省からの本学への来校者

時 期	内 容
平成21年（2009年）10月	中国江西省人民政府外事僑務弁公室5人来校
平成22年（2010年）4月	中国江西省花卉交流訪問団来校
平成25年（2013年）10月	中国江西省花卉協会リーダー3人来校

4 ベトナム

(1) 概要

本県では、平成 27 年（2015 年）11 月にベトナム・ゲアン省共産党書記長、人民委員会委員長などが来岐され、岐阜県庁において、「岐阜県とゲアン省人民委員会との友好協力に関する覚書」を締結したことを契機に、「農業」「経済」「教育」「環境」などの分野で交流が進められている。

本県では、農業分野への相互理解を深めることを目的とし、平成 28 年度（2016 年度）には同省農業農村開発局から農業担当者 2 人を受入れ、また、平成 30 年度（2018 年度）には同じく農業担当者 13 人を受入れて、県内農業施設等の視察を実施した。

平成 28 年度（2016 年度）の本学での視察については、本県が目指す実践教育について理解してもらうため、教育カリキュラムの紹介やほ場視察を実施した。



(2) 視察の概要

＜平成 28 年（2016 年）＞

○視察者 2 人

ゲアン省農業農村開発局 栽培・植物保護部門長

ゲアン省農業農村開発局 栽培・植物保護部門 植物保護課長

○期間

平成 28 年（2016 年）9 月 28 日（来日）～平成 28（2016 年）年 10 月 7 日（帰国）

○視察日程及び概要

時 期	概 要	場 所
9 月 28 日	県の農業施策・体制説明 ぎふクリーン農業、GAP 等	岐阜県庁（岐阜市）
9 月 29 日	普及活動手法 農業技術センターの取組	県農業技術センター（岐阜市）
9 月 30 日	品質基準や鮮度管理体制等の取組	JA ぎふ曾我屋枝豆選果場（岐阜市）
	JA ぎふ取組紹介（組織概要等）	JA ぎふ（岐阜市）
	農産物直売所の取組	おんさい広場 鷺山（岐阜市）
	お茶栽培技術	農業技術センター池田試験地（池田町）
10 月 3 日	教育カリキュラム紹介、ほ場視察	農業大学校（可児市）
	教育カリキュラム紹介、ほ場視察	国際園芸アカデミー（可児市）
	ぎふクリーン農業及び独自 GAP	下宮青果部会協議会（神戸町）
10 月 4 日	岐阜・ベトナム友好協会会長面談 岐阜大学応用生物科学部長面談 岐阜大学研究内容等紹介 ベトナム人留学生面談	岐阜大学（岐阜市）
	農産物加工取組紹介	明宝レディース（郡上市）
10 月 5 日	収穫作業、収穫後の保管状況、調整作業、出荷作業等視察	ほうれんそう、トマト生産者ほ場（高山市）
	選果作業、選果後の保管状況（予冷等）、出荷作業等視察	高山市トマト選果場（高山市）
	出荷物の保管状況等	JA ひだ上切集荷場（高山市）
	世界かんがい施設遺産曾代用水の取組	曾代用水（関市）
10 月 6 日	次年度研修打ち合わせ等	県農業技術センター（岐阜市）
	研修振り返り	岐阜県庁（岐阜市）

○本学視察の概要

教育カリキュラムについて、学校案内パンフレット、ガイドブック等により説明後、施設を案内した。視察者から、「留学生がいるかどうか、また授業料はどれくらいか」等の質問を受けた。平成 28 年度（2016 年度）に、マイスター科 1 年生に中国からの留学生が在籍しているほか、平成 23 年度（2011 年度）にも留学生を受入れた実績があることを紹介した。

(3) 成果

ベトナム・ゲアン省の職員に対し学校紹介を行ったことで、まずは本学を認知していただき、これを機に今後の人的交流の足掛かりとすることができた。

また、花き振興に取り組む組織「清流の国ぎふ花き戦略会議」（平成 26 年（2014 年）3 月発足）（現：ぎふ花と緑の振興コンソーシアム）が平成 27 年（2015 年）、平成 28 年（2016 年）と 2 カ年連続でベトナムを訪問し、花き生産・流通に関する技術交流に取り組むとともに、県の育成品目であるフランネルフラワー輸出の可能性等についても検討してきた。

本学においては、フランネルフラワーの学内での栽培について検討を開始した時期であり、花き輸出を通じた海外戦略に取り組む「清流の国ぎふ花き戦略会議」（現：ぎふ花と緑の振興コンソーシアム）からベトナムの情報を入手するなど、ベトナムとの関わりを広げることができた。

5 その他

(1) 本学教職員による海外での研究発表等

国 名	時 期	内 容
台湾	平成 16 年 (2004 年) 9 月	第 41 回 IFLA (国際造園家連盟) 世界大会で研究発表
アメリカ	平成 17 年 (2005 年) 9 月	第 4 回交際バラシンポジウムで研究発表
ニュージーランド	平成 18 年 (2006 年) 11 月	環太平洋ばら友好協定に伴う交流として国際コンテスト 審査・表彰式に出席
マレーシア 台湾	平成 20 年 (2008 年) 2 月	東アジア花き流通調査
デンマーク	平成 20 年 (2008 年) 8 月	幼児の自然体験環境に関する研究

(2) 海外からの本学への主な来校者

国 名	時 期	内 容
アメリカ	平成 17 年 (2005 年) 5 月	世界バラ会連合会長来校 特別講義 バラ「ピース」の育種来歴と世界のバラ園
オランダ	平成 17 年 (2005 年) 11 月	ウェラントカレッジ国際交流部長来校
オランダ	平成 18 年 (2006 年) 3 月	ウェラントカレッジ教官来校 特別講義 フラワーディスプレイデザインについて
イタリア	平成 18 年 (2006 年) 5 月	元世界バラ会連合会長来校
オランダ	平成 18 年 (2006 年) 9 月	ホーランドウェブ社代表が講義
オランダ	平成 18 年 (2006 年) 10 月	Stoas Professional University の学生 2 人が来校し本学 学生と交流
オランダ	平成 18 年 (2006 年) 10 月	ウェラントカレッジ国際交流部長来校
スロバキア	平成 19 年 (2007 年) 6 月	岐阜農林高校留学生が来校
アフリカ 諸国	平成 19 年 (2007 年) 11 月	南部アフリカ開発共同体 (SADC) 大使委員会のマラウ イ大使館参事官、南アフリカ大使館参事官、レソト王 国大使館三等書記官来校
台湾	平成 20 年 (2008 年) 5 月	台湾花卉輸出協会 12 人来校

(3) 本学における留学生

本学マイスター科に入学した留学生数は平成 16 年度（2004 年度）から令和 4 年度（2022 年度）までに 2 人で、入学年度は平成 23 年度（2011 年度）と平成 28 年度（2016 年度）である。

2 人の留学生は本学卒業後、観葉植物の生産・販売、種苗の輸出入、室内・屋上・壁面緑化の設計・施工業務を行う愛知県の企業に就職し活躍している。

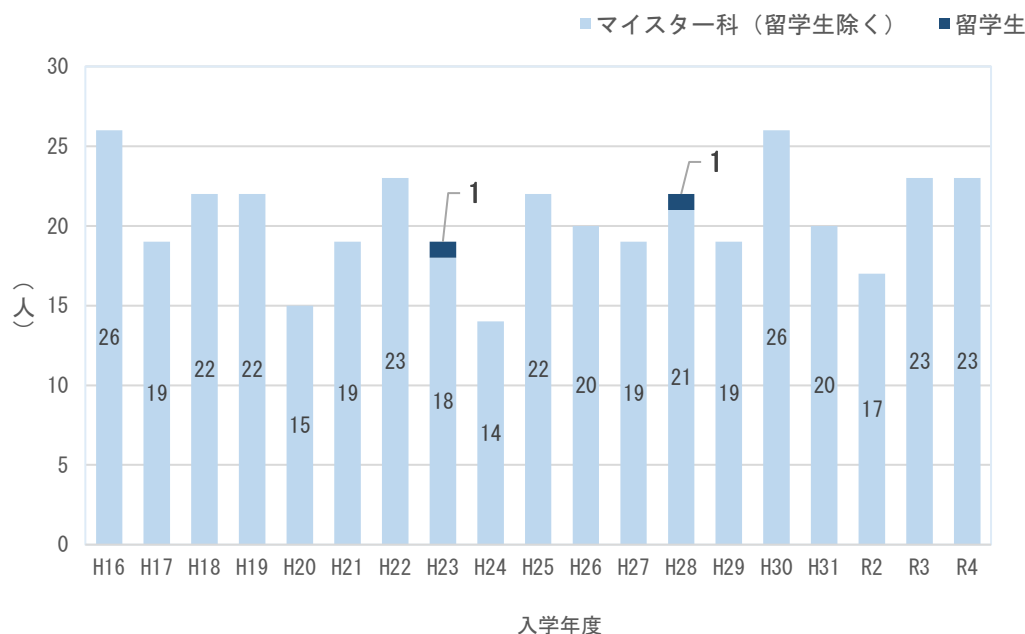


図 1 マイスター科入学者数と留学生数

(4) 本学卒業生の海外での活躍、インターンシップ等の実施

上級マイスター科※1の卒業生が中国の造園会社に就職し、活躍している。

上級マイスター科の卒業生 1 人と現役生 1 人及びマイスター科の卒業生 1 人の 3 人が、2012 年フェンロー国際園芸博覧会（フロリアード 2012）※2の日本出展のメンバーとして 2 ヶ月間業務に参加した。

マイスター科の学生 3 人が在学中に公益社団法人の海外農業研修事業により国内研修を実施し、卒業後、2014 年（平成 26 年）にアメリカの植物園、2016 年（平成 28 年）にアメリカの造園会社、また、2018 年（平成 30 年）にドイツの造園会社で研修を実施した。

※1 上級マイスター科は平成 25 年（2013 年）3 月に廃止

※2 オランダフェンローで平成 24 年（2012 年）4 月 5 日から 10 月 7 日まで開催

○海外でのインターンシップ等

国 名	時 期	学 生
中国	平成 18 年（2006 年）11 月	上級マイスター科 3 年生 インターンシップ
台湾	平成 19 年（2007 年）7 月	上級マイスター科 4 年生 インターンシップ
中国	平成 19 年（2007 年）10 月	マイスター科 2 年生 インターンシップ
ドイツ	平成 20 年（2008 年）7 月	上級マイスター科 2 年生 ボン大学植物園での海外研修
オランダ	平成 24 年（2012 年）3 月	上級マイスター科 3 年生 2012 年フェンロー国際園芸博覧会長期実務・調査

(5) 海外研修等の実績がある本学卒業生による講義

海外研修の実績があるマイスター科卒業生が令和元年度（2019 年度）及び令和 2 年度（2020 年度）に本学活動成果報告会において研修内容等についての講義を行った。また、中国の造園会社に勤務する上級マイスター科卒業生が平成 30 年度（2018 年度）に本学活動成果報告会において中国での造園の仕事内容について講義を行った。

Ⅲ 海外視察研修の成果

1 目的

グローバル化の流れは園芸業界にも押し寄せ、もはや好むと好まざるに関わらずに対応していく必要がある。本学では平成 17 年度（2005 年度）から授業として、園芸大国のイギリスや花き産業先進国のオランダを中心に海外視察研修を実施している。

イギリスには、主に世界最大規模のチェルシーフラワーショーの開催に合わせて訪問し、最新のフラワーデザインやガーデン展示と花き関連施設の視察により、国際都市ロンドンの園芸産業の動向を理解することや、ロンドンやコッツウォルズ地方の伝統的な有名庭園をめぐり、イングリッシュガーデンの普遍的な魅力を理解することとしている。また、オランダでは、10 年に一度開催されるフロリアードや世界最大規模のアールスメア花き市場などを視察し、最新の花き情報に触れ、世界の花き動向について理解を深めることとしている。

海外視察研修は、学生が海外での園芸に関する理解を深め、国際感覚を養うことを目的として実施している。

2 授業概要

令和 4 年度シラバスにおいて、海外視察研修はマイスター科 2 年生の前期に実施する必修授業であり、授業時間数は、ガイダンス、事前研修、報告書とりまとめ、報告会での個別テーマについての発表など 90 時数である。

海外視察研修は 7 泊 9 日でコッツウォルズ 3 泊、ロンドン 4 泊で、チェルシーフラワーショーに合わせた 5 月下旬を予定している。

授業概要

形態	開講時期	時間数	区分	評価方法
実習	2 年前期	90 時数	必修	取組姿勢 80%（引率教員 60%、コース教員 20%）、報告会 20%

授業時数（90 時数）の内訳

項 目	時間数
ガイダンス	2
事前研修	6
海外視察研修	64
報告書とりまとめ	10
海外視察研修報告会	8
合 計	90

3 シラバス（令和4年度）の到達目標と視察の目的

到達目標

- ①チェルシーフラワーショー（5月後半）及び国際都市ロンドンで、フラワー、ガーデンの最新のデザインを知る
- ②英国の有名庭園を知る。
- ③英国の花き流通施設を知る。
- ④海外体験を通して国際感覚を養う。

視察の目的

○チェルシーフラワーショー

時代の先端を行くガーデンデザイン、フラワーアレンジメント、新しい園芸品種や園芸商品などを見る。

○ウィズリーガーデン

作庭の見本となる庭があり、植物の庭での使い方を学ぶ。

○キューガーデン

世界遺産に登録されている世界最大の植物園であり、植物分類や生態、園芸・ガーデニングの歴史を学ぶ。

4 最優先の視察先概要

①イギリス

【チェルシーフラワーショー】

英国王立園芸協会が主催し、毎年5月にチェルシーで開催され、英国園芸界の動向が見られる世界的な園芸の祭典である。グレート・スプリング・ショーの正式名称でも知られる。

世界屈指のガーデンデザイナーたちが10m×20mの大きな庭を設計し、数週間の工事期間でガーデナーたちと作り上げるショーガーデン部門の作品には、毎年、注目が集まる。また、時代の先端を行くガーデンデザインだけでなく、流行のフラワーアレンジメント、新たな園芸新種や園芸商品などの発表の場となっている。

ディスプレイは100を超え、世界のトップフローリストによるコンペも開催される。日本人も参加して日本美を世界に発信している。

新型コロナウイルス感染症の世界的大流行により、令和2年（2020年）はオンライン開催となり、令和3年（2021年）は歴史で初めて9月開催となった。

【ウィズリーガーデン】

イギリスの首都ロンドンにある英国王立協会（RHS）所有・運営で、1804年に創立し、現在は約100ヘクタールのイギリス有数の庭園である。「イギリス人に最も愛されている庭」と言われ、庭づくりのヒントを与えてくれるガーデナーの聖地でもある。

世界的に最高規模の植物コレクションを誇り、園内にはローズガーデン、ハーブガーデン、ロックガーデン、ワイルドガーデンなど20を超える様々なスタイルの庭がある。128m続くボーダーガーデンやシャクナゲ、ツツジの群生が有名である。

植物分類はキューガーデン、植物の庭での使い方はここウィズリーガーデンと、2つの庭はイギリスの園芸文化を底辺で支える両輪となっている。

来園者は、1905年には年間約5,000人ほどだったが、近年は年間100万人以上の人を訪れている。

【キューガーデン】

ロンドンの南西部にあり、広さは 132ha で 1759 年に王室宮殿に附属する植物園として開園した。700 万種類以上の植物を集めた世界最大の植物園である。正式にはキューにある王立植物園で、交通の便がよく、年間 100 万人もの来園者がある。

園内は芝生に樹木が茂る風景式庭園となっていて、温室、宿根草展示園、ロックガーデン、バラ園、日本庭園、中国風のパゴダ（塔）などが点在する。また、来訪者のための植物や生態・環境に関する講座も頻繁に開かれ、飽きることない植物に関するテーマパークとなっている。

イギリスにおけるその歴史的価値と、さらに人類の植物学の発展に果たした役割が評価され 2003 年にユネスコ世界遺産に登録された。

②フランス

【バガテルバラ園】

パリ、ブローニュの森にあるバガテル公園内のバラ園で、1905 年に造園家ジャン＝クロード・ニコラ・フォレストイエによってつくられ、現在はパリ市が管理する。17,000 m²の敷地にフランス式の幾何学的な左右対称のデザインで形作られ、1,200 種、およそ 9,000 本のバラが植えられている。毎年 6 月、バラ新品種の国際品評会が開催される。静岡県河津町には姉妹園の河津バガテル公園がある。

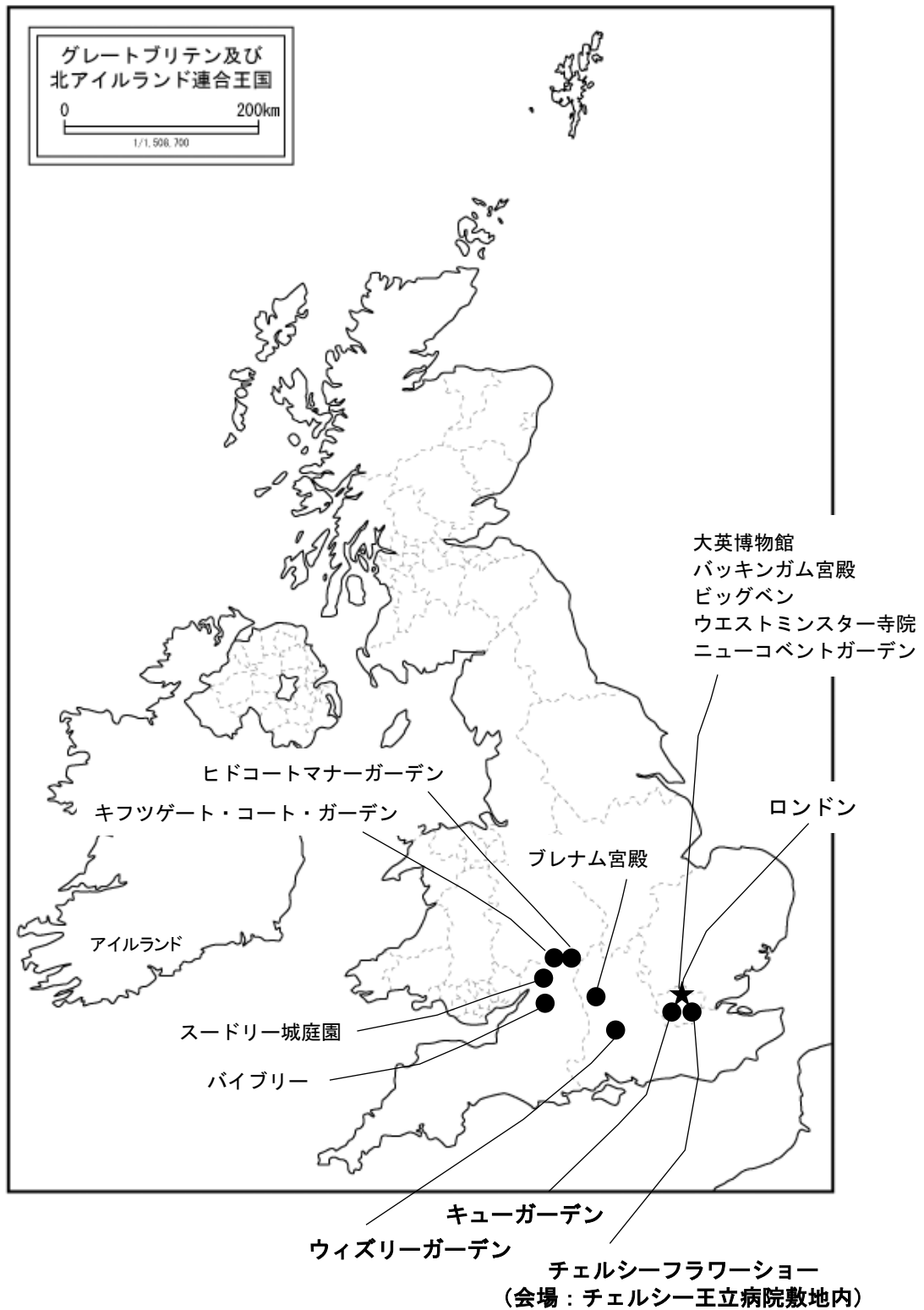
③オランダ

【アールスメア花市場】

オランダの首都アムステルダム郊外の北ホラント州・アールスメールに、1912 年に世界で最初のセリ取引の市場として作られた、敷地面積約 130 万 m²の世界最大規模の花き卸売市場である。世界の花の価格はアールスメールで決まるといわれ、世界中から視察者が絶えない。

多くの花は、市場から車で 20 分の距離に位置するアムステルダム・スキポール空港を通じて世界中に出荷される。

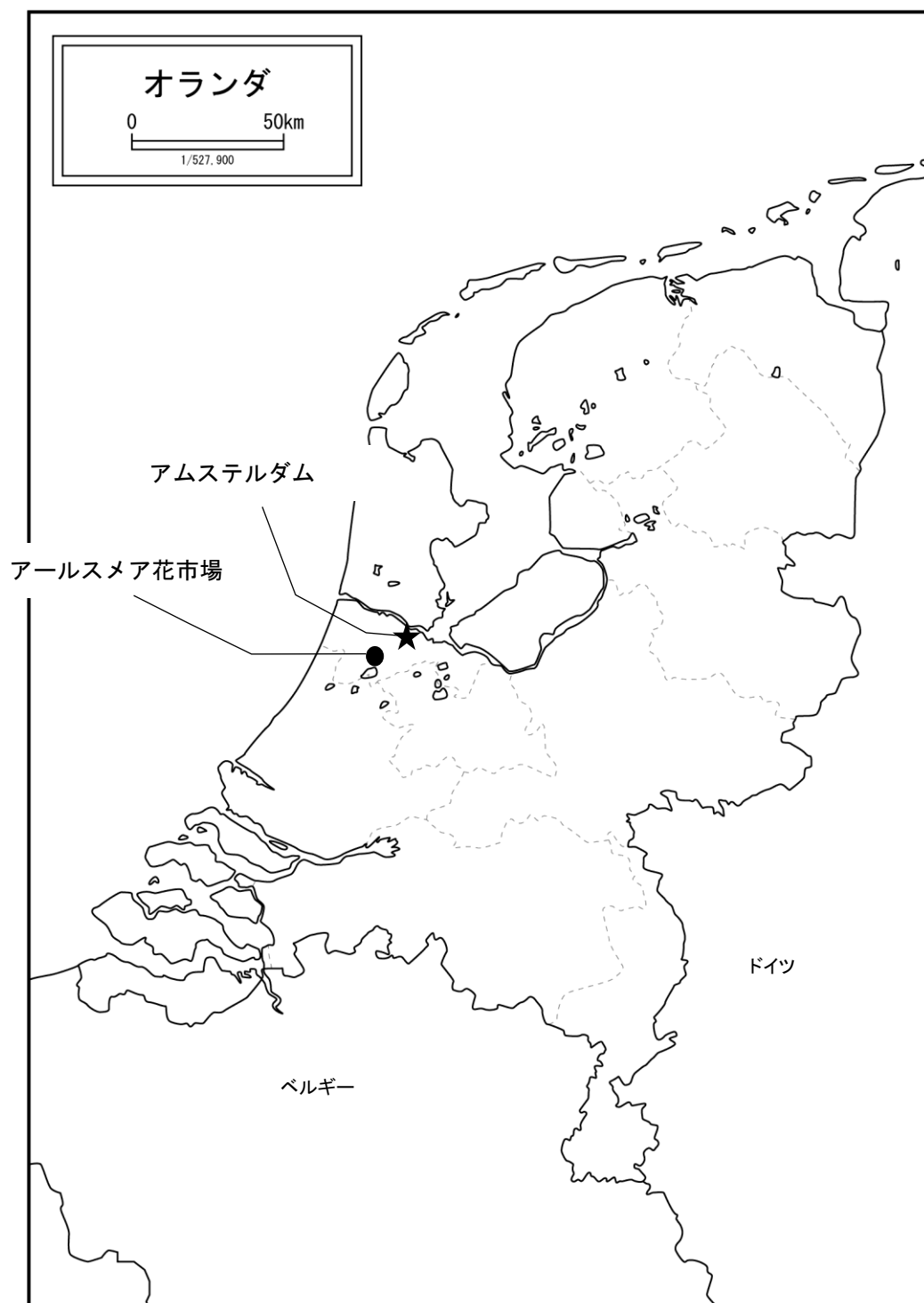
○イギリスでの主な視察先



○フランスでの主な視察先



○オランダの主な視察先



5 成果

本学が開学した平成 16 年度（2004 年度）入学の第 1 期生が 2 年次である平成 17 年度（2005 年度）から令和元年度（2019 年度）まで 15 回の海外視察研修を実施した。

視察研修先の国別ではイギリス 14 回、オランダ 5 回、フランス 2 回で、研修を実施した学生総数は延べ 267 人、引率教職員は延べ 30 人である。研修先は延べ 260 箇所へのぼり、1 回の研修では 17 か所程度の研修先となっている。

なお、新型コロナウイルス感染症対策のため、令和 2 年度（2020 年度）、令和 3 年度（2021 年度）、令和 4 年度（2022 年度）は国内視察研修に振り替えた。

学生及び教員のアンケート結果によれば、海外視察研修は、海外の園芸事情を肌で感じるだけでなく、世界の中での日本の園芸の特徴についても考えることができ、日常の教育活動だけでは得られない大きな経験となった。また、海外の園芸先進事例を体験することによって、視野を広め、情報収集やコミュニケーション能力を養うことができ、帰国後に研修での体験をまとめ、報告会で報告することにより、総合的な分析・考察力、プレゼンテーション能力などを養うことができた。

6 学生アンケート結果の概要

①チェルシーフラワーショー

- ・多くの作品、様々な装飾やアレンジメントを見ることができ勉強になった。
- ・ここから世界の花の流行が始まっていることが体感できた。
- ・イギリスの庭というより世界の様々な形式のガーデン、知らない多くの植物、1つの植物で多くの品種をみることができたのが良かった。
- ・展示品装飾の 1つ1つの色使いが園芸室内装飾を学ぶ上で最も勉強になった。

②ウィズリーガーデン

- ・高低差を上手に利用した完成された庭で、たいへん興味深く勉強になった。
- ・ボーダーや温室が綺麗だった。試験地があって興味深かった。
- ・ガイドの説明がよく、専門的な説明を聞くことができた。
- ・敷地が広く、園内を見る時間が少し少なかった。

③キューガーデン

- ・広大な敷地で園芸店も良かった。
- ・広くてきれいな日本庭園やイギリスの庭園もあって感動するものが多かった。

7 海外視察研修の概要（平成 17 年（2005 年）～令和元年（2019 年））

研修期間・研修国	研修先	参加数
【第 1 回】 平成 17 年（2005 年） 7 月 5 日～7 月 14 日 <オランダ> <フランス>	<オランダ> ・アールスメア花市場 ・生産者訪問（TerraNigra 社、Holstein 社、Rijn Plant 社） ・ウェラント・カレッジ体験実習 ・ガーデンセンター訪問（Osdorp） ・生花店訪問 <フランス> ・ベルシー公園 ・ラ・ビレット公園 ・シトロエン公園 ・バガテルバラ園 ・パリ市内花店 ・ガーデンセンター ・ライ・レ・ローズバラ園 ・ヴェルサイユ宮殿（庭園、プティ・トリアノン）	学生 18 人 引率 教職員 2 人
報告会 平成 17 年（2005 年）7 月 28 日		
【第 2 回】 平成 18 年（2006 年） 7 月 4 日～7 月 13 日 <オランダ> <イギリス>	<オランダ> ・アールスメア花市場 ・生産者訪問（Vlasman 社、Holstein 社、Olieman bij 社） ・Flower academy 体験実習 ・生花店訪問 ・ガーデンセンター訪問（Osdorp） ・都市公園 2 か所 <イギリス> ・ハンプトンコートパレスフラワーショー ・キューガーデン ・オープンガーデン 3 か所訪問 ・ウィズリー王立園芸協会植物園 ・ウォルサムパレスガーデン ・ローズナーセリー ・シンシングハーストキャッスルガーデン ・生花店訪問及びアレンジ体験	学生 19 人 引率 教職員 2 人
報告会 平成 18 年（2006 年）8 月 1 日		
【第 3 回】 平成 19 年（2007 年） 7 月 3 日～7 月 12 日 <オランダ> <イギリス>	<オランダ> ・アールスメア花市場 ・ガーデンセンター訪問（ヘットオースティン、Osdorp） ・生産者訪問（Holstein 社） ・オランダ園芸歴史博物館 ・Flower academy 体験実習	学生 17 人 引率 教職員 2 人

	・生花店2店舗 ・都市公園2か所 <イギリス> ・ハンプトンコートパレスフラワーショー ・コロンビアロードフラワーマーケット ・キューガーデン ・個人庭園2か所 ・ウィズリー王立園芸協会植物園 ・ホームセンター ・シシングハーストキャッスルガーデン ・園芸療法ガーデン ・ケンジントンパーク ・ハイドパーク ・大英博物館 ・生花店アレンジ体験	
報告会 平成19年(2007年)7月31日		
【第4回】 平成20(2008)年 7月5日～7月14日 <フランス> <イギリス>	<フランス> ・フォンテンブロー宮殿 ・ヴェルサイユ宮殿 ・トリアノン宮殿 ・ガーデンセンター ・ランジス市場 ・バガテルバラ園 ・生花店1か所 <イギリス> ・チェルトナム個人庭園 ・コッツウォルズ個人庭園等3か所 ・ヒドコートマナーガーデン ・バース街並み ・エデンプロジェクト ・ハンプトンコートパレスフラワーショー ・ウィンザー街並み ・サビルガーデン ・ガーデンセンター ・キューガーデン ・ケンジントンパーク ・生花店ブーケ体験 ・ケペルマナーカレッジ ・コロンビアロードフラワーマーケット ・庭園歴史博物館	学生23人 引率 教職員2人
報告会 平成20年(2008年)7月30日		
【第5回】 平成21年(2009年) 9月22日～9月28日 <イギリス>	・ニューコベントガーデン市場 ・キューガーデン ・生花店アレンジ体験2か所 ・ケペルマナーカレッジ ・ウィズリー王立園芸協会植物園 ・個人庭園(ロックライフガーデン) ・ブレナム宮殿	学生15人 引率 教職員2人

	・ロココガーデン ・ヒドコートマナーガーデン ・モールバンフラワーショー ・コロンビアロードフラワーマーケット ・ガーデンセンター ・リーズ城	
報告会 平成 21 年 (2009 年) 11 月 25 日		
【第 6 回】 平成 22 年 (2010 年) 7 月 2 日～7 月 9 日 <イギリス>	・ウィズリー王立園芸協会植物園 ・ヒドコートマナーガーデン ・ロココガーデン ・ボートン・オン・ザ・ウォーター ・バンズリーハウス&ガーデン ・キフツゲート・コート・ガーデンズ ・ウォーターペリーガーデンズ ・生花店 3 店舗 ・キューガーデン ・ニューコベントガーデン市場 ・ハンプトンコートパレスフラワーショー	学生 14 人 引率 教職員 2 人
報告会 平成 22 年 (2010 年) 7 月 28 日		
【第 7 回】 平成 23 年 (2011 年) 5 月 25 日～6 月 1 日 <イギリス>	・ニューコベントガーデン市場 ・キューガーデン ・園芸店 2 箇所 ・生花店アレンジ体験 ・チェルシーフラワーショー ・ロココガーデン ・ヒドコートマナーガーデン ・チップینگカムデン街並 ・ウォーターペリーガーデンズ ・キフツゲート・コート・ガーデンズ ・ボートン・オン・ザ・ウォーター ・公園等 3 箇所 ・生花店 2 箇所 ・ウィズリー王立園芸協会植物園 ・ガーデンセンター ・チェルシーガーデナー	学生 20 人 引率 教職員 2 人
報告会 平成 23 年 (2011 年) 6 月 22 日		
【第 8 回】 平成 24 年 (2012 年) 5 月 20 日～5 月 27 日 <オランダ> <イギリス>	<オランダ> ・フロリアード 2012 <イギリス> ・ウィズリー王立園芸協会植物園 ・キューガーデン ・ストウランドスケープガーデン ・生花店ブーケ体験 ・リージェントパーク ・チップینگカムデン街並 ・生花店 ・園芸店	学生 14 人 引率 教職員 2 人

	・ ニュースパイタルフィールズ市場 ・ グレートディクスターハウス & ガーデン ・ シシングハーストキャッスルガーデン ・ チェルシーフラワーショー ・ 個人庭園	
報告会 平成 24 年 (2012 年) 6 月 26 日		
【第 9 回】 平成 25 年 (2013 年) 5 月 19 日～5 月 26 日 <オランダ> <イギリス>	<オランダ> ・ キューケンホフ公園 ・ ライデン大学植物園 ・ アールスメア花市場 ・ 生産者訪問(VireÖ plants 社、Hip-Holland 社) ・ ガーデンセンター訪問 (HET OOSTEN) <イギリス> ・ 個人庭園 (Amabel Lindsay 邸) ・ ホランド・パーク ・ チャーチルアーム ・ チェルシーフラワーショー ・ 生花店 3 店舗 ・ ハンプトンコートパレスガーデン ・ キューガーデン ・ リージェントパーク ・ ケンジントンパーク ・ ウィズリー王立園芸協会植物園	学生 11 人 引率 教職員 2 人
報告会 平成 25 年 (2013 年) 7 月 24 日		
【第 10 回】 平成 26 年 (2014 年) 5 月 20 日～5 月 26 日 <イギリス>	・ ニュースピタルフィールズマーケット ・ キューガーデン ・ 生花店アレンジ体験 ・ マッドシュートパーク & ファーム ・ 個人庭園 (Amabel Lindsay 邸、Pear Tree Cottage) ・ ホランド・パーク ・ ハイドパーク ・ ケンジントンパーク ・ チェルシーフラワーショー ・ チッピングカムデン街並 ・ ヒドコートマナーガーデン ・ ストウオンザウォルズ ・ ボートン・オン・ザ・ウォーター ・ ウォーターペリーガーデンズ ・ ラウシャム庭園 ・ ウィズリー王立園芸協会植物園 ・ ガーデンセンター ・ チェルシーガーデナー	学生 19 人 引率 教職員 2 人
報告会 平成 26 年 (2014 年) 7 月 23 日		
【第 11 回】 平成 27 年 (2015 年)	・ キューガーデン ・ 生花店 5 か所	学生 16 人

5月18日～5月25日 ＜イギリス＞	・チェルシー・フィジック・ガーデン ・チェルシーガーデナー ・ベスチャトーガーデン ・個人庭園（Amabel Lindsay 邸、オールドチェッカ邸） ・チェルシーフラワーショー ・ウォーターペリーガーデンズ ・スードリー城庭園 ・ウィッチフォードポタリー ・ヒドコートマナーガーデン ・プレナムパレス ・コロンビアロードフラワーマーケット ・ウィズリー王立園芸協会植物園	引率 教職員2人
報告会 平成27年（2015年）7月17日		
【第12回】 平成28年（2016年） 5月23日～5月31日 ＜イギリス＞	・キューガーデン ・生花店訪問 ・チェルシー・フィジック・ガーデン ・チェルシーガーデナー ・ベスチャトーガーデン ・チェルシーフラワーショー ・カンタベリー街並 ・グレートディクスターハウス&ガーデン ・リーズ城 ・チラム村街並 ・スコットニーキャッスル ・ハイドパーク ・コロンビアロードフラワーマーケット ・ウィズリー王立園芸協会植物園	学生17人 引率 教職員2人
報告会 平成28年（2016年）7月22日		
【第13回】 平成29年（2017年） 5月23日～5月30日 ＜イギリス＞	・キューガーデン ・生花店訪問 ・ベスチャトーガーデン ・チェルシーフラワーショー ・ボートン・オン・ザ・ウォーター ・スードリー城庭園 ・チップینگカムデン街並 ・ウィッチフォードポタリー ・プレナム宮殿 ・ヒルトップガーデンストア ・ウィズリー王立園芸協会植物園 ・チェルシー・フィジック・ガーデン ・チェルシーガーデナー ・ヒドコートマナーガーデン ・スノースヒル・マナー&ガーデン ・ニュースピタルフィールズマーケット ・バイブリー ・オックスフォード市内	学生22人 引率 教職員2人
報告会 平成29年（2017年）7月21日		

【第14回】 平成30年(2018年) 5月21日～5月29日 <イギリス>	・オックスフォード市内 ・ノットカット・ナーサリー ・キフツゲート・コート・ガーデンズ ・バイブリー ・スードリー城庭園 ・チップینگカムデン街並 ・ブロードウェイ ・フラワービジョン ・ウィズリー王立園芸協会植物園 ・チェルシーフラワーショー ・チェルシーガーデナー ・大英博物館 ・ビッグベン ・ウェストミンスター寺院 ・バッキンガム宮殿 ・コロンビアロードフラワーマーケット ・ベスチャトーガーデン ・キューガーデン ・サイオン・パーク ・ロンドン市内公園 ・ロンドン市内生花店	学生 18 人 引率 教職員 2 人
報告会 平成30年(2018年) 7月18日		
【第15回】 令和元年(2019年) 5月21日～5月29日 <イギリス>	・キフツゲート・コート・ガーデンズ ・ヒドコートマナーガーデン ・ボートン・オン・ザ・ウォーター ・バイブリー ・スードリー城庭園 ・ブレナム宮殿 ・オックスフォード市内 ・フラワービジョン ・ウィズリー王立園芸協会植物園 ・チェルシーフラワーショー ・大英博物館 ・ビッグベン ・ウェストミンスター寺院 ・バッキンガム宮殿 ・ニューコベントガーデン市場 ・キューガーデン ・ウエストフィールドショッピングセンター ・ロンドン市内公園 ・ロンドン市内生花店	学生 24 人 引率 教職員 2 人
報告会 令和元年(2019年) 7月17日		

IV 国際交流の現状と課題

1 現状

社会や経済のグローバル化が進み、国際社会及び我が国を取り巻く環境が大きく変化する中、我が国が今後も健全に成長し、魅力ある国であるためには、諸外国との交流や協力を一層充実させていくことが重要である。

文部科学省では、コロナ禍において改めて国際交流・協力の重要性が再認識されたことを踏まえ、国際社会で活躍できる人材の育成や、海外での優秀な学生及び研究者の戦略的な受入れによる双方向の人的交流を継続的に推進するとともに、諸外国から高い関心が示されている日本の初等中等教育や「日本型教育の海外展開」を官民一体となって推進することとしている。

また、SDGs（持続可能な開発目標）における教育に関する目標（SDG4※）の実現のため、「教育 2030 行動枠組み」がユネスコ、加盟国政府等により採択され、その取組として「持続可能な開発のための教育（Education for Sustainable Development：ESD）」が始まった。ESD は、地球規模の課題を自分事として捉え、その解決に向けて自ら行動を起こす力を身につけるための教育であり、その重要性を認識し、持続可能な社会の実現に向けて各学校において ESD を推進していくことが必要となる。

※SDG4「質の高い教育をみんなに」

全ての人に包摂的かつ公正な質の高い教育を確保し、生涯学習の機会を促進する。

(1) 訪日外国人旅行者及び出国日本人の状況

日本政府観光局（J N T O）によれば、訪日外国人旅行者数は、平成 23 年（2011 年）が 622 万人で令和元年（2019 年）は 3,188 万人と 5.1 倍となったが、新型コロナウイルス感染症により、令和 2 年（2020 年）は 412 万人、令和 3 年（2021 年）は 25 万人と激減した（図 2）。また、出国日本人数は、平成 23 年（2011 年）が 1,699 万人で令和元年（2019 年）は 2,008 万人と 1.2 倍となったが、令和 2 年（2020 年）は 317 万人、令和 3 年（2021 年）は 51 万人とこちらも激減した（図 3）。

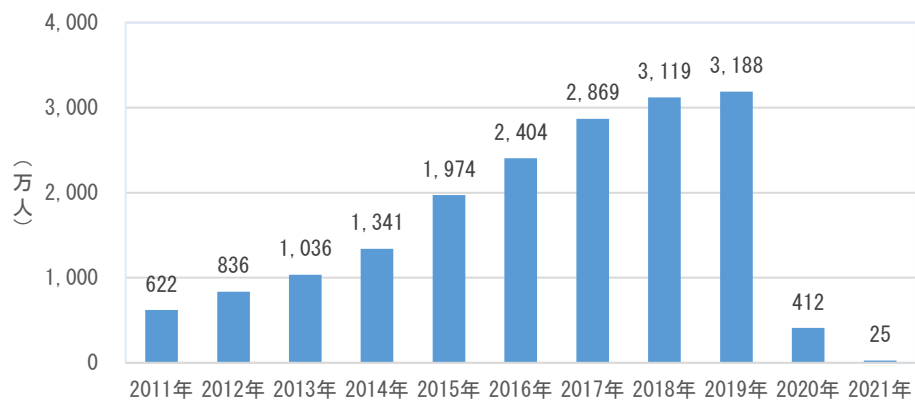


図2 訪日外客数

日本政府観光局 (J N T O)

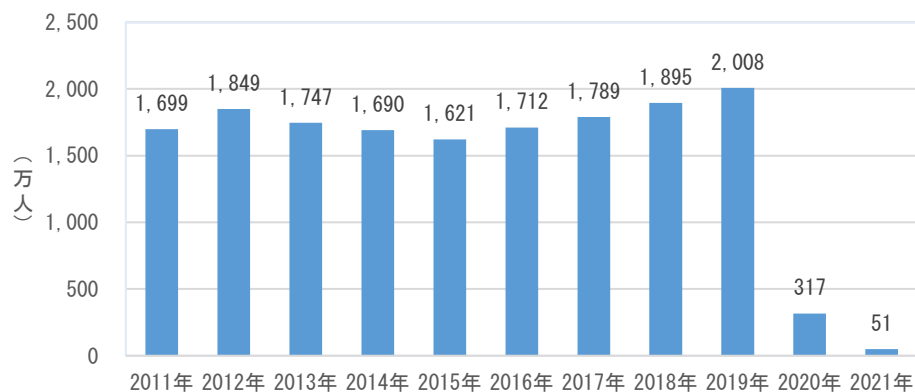


図3 出国日本人数

日本政府観光局 (J N T O)

(2) 外国人留学生の受入れ及び日本人学生の留学状況

独立行政法人日本学生支援機構の調べによると、我が国の大学等で学ぶ留学生の数は、平成23年度(2011年度)が16.4万人で、令和元年度(2019年度)は31.2万人と1.9倍となった。コロナ禍による影響を受け、令和2年度(2020年度)は27.9万人、令和3年度(2021年度)は24.2万人と減少したが(図4)、オンラインの有効活用等を含め、引き続き各大学等は交流の推進に取り組んでいる。

岐阜県の外国人留学生数は、岐阜地域留学生交流推進協議会事務局によると、平成23年度(2011年度)が1,371人、令和2年度(2020年度)は1,882人、令和3年度(2021年度)は1,874人であった(図5)。

本学における外国人留学生数は、平成23年度(2011年度)に1人と平成28年度(2016年度)に1人の計2人の入学実績があり、卒業後は日本国内で活躍している。

大学等が把握している日本人学生の留学状況は、独立行政法人日本学生支援機構による調査で、平成23年度(2011年度)が5.4万人で、近年は短期の留学を中心に留学生数が増加していたが、コロナ禍により令和元年度(2019年度)は前年比7,800人減の10.7万人であった。さらに令和2年度(2020年度)は前年比10.5万人少ない1,487人の激減であった(図6)。

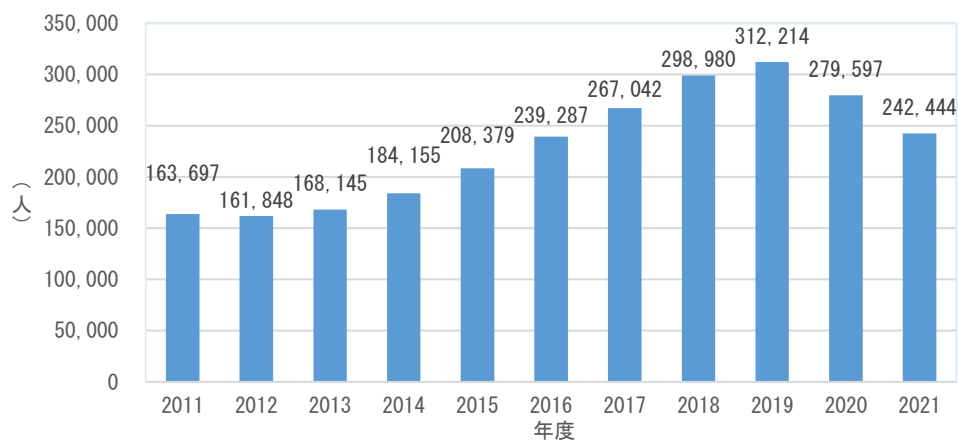


図4 外国人留学生数 (独) 日本学生支援機構「外国人留学生在籍状況調査」

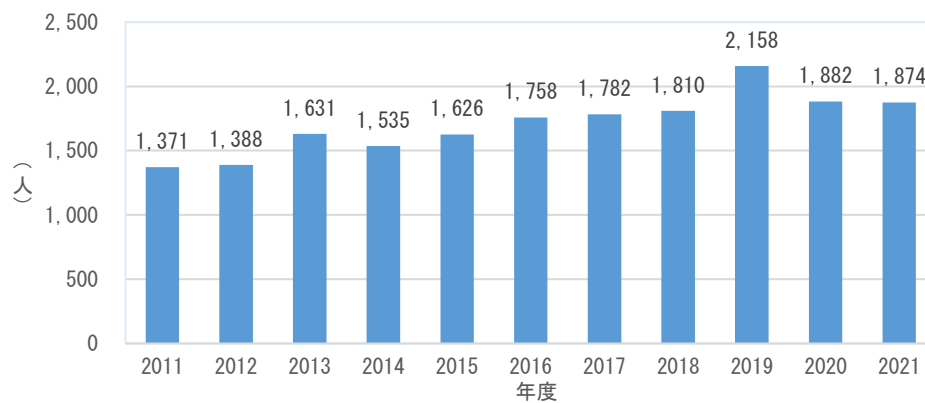


図5 岐阜県の外国人留学生数 岐阜地域留学生交流推進協議会事務局
※2013年以降は、日本語教育機関等在籍者を含む

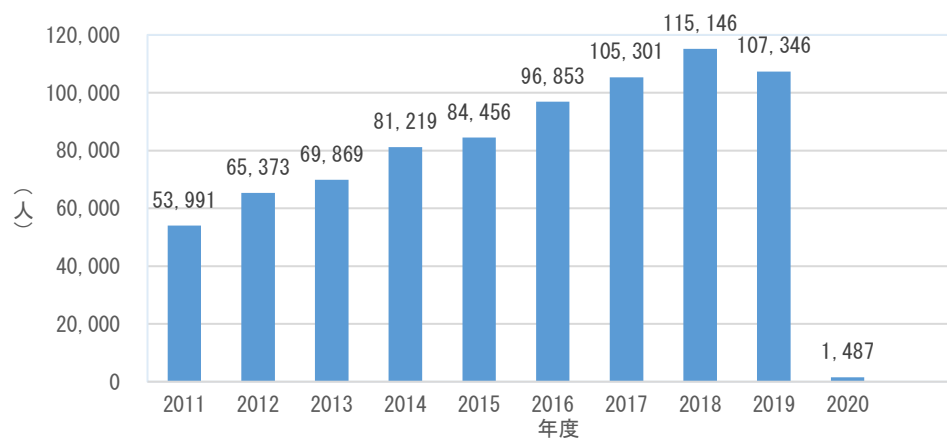


図6 大学等が把握している日本人学生の留学状況 (独) 日本学生支援機構「日本人学生留学状況調査」

(3) 岐阜県の国際交流の状況

岐阜県は、多くのユダヤ人避難民を救うため「命のビザ」を発給した外交官杉原千畝氏を縁にしたリトアニアや、平成 20 年（2008 年）日仏交流 150 周年を機に持続可能な交流を進めることに合意したフランス、2005 年「愛・地球博」の展示品を「世界イベント村ぎふ」の秋祭りで展示したことがきっかけで交流が始まったモロッコ王国との国レベルの交流を進めている。

また、昭和 63 年（1988 年）に友好提携締結した中国江西省、平成 27 年（2015 年）に友好提携締結したベトナム・ゲアン省、平成 29 年（2017 年）に友好提携締結したモロッコ王国ウジュダ・アンガット府、平成 25 年（2013 年）に覚書を締結したドイツバーデン＝ヴュルテンブルク州などとの自治体レベルの交流も進めている。

一般財団法人自治体国際化協会の調査で、令和 2 年（2020 年）3 月 1 日現在、岐阜市、高山市など 14 市 6 町 1 村の 21 自治体において、中国、韓国、アメリカ、カナダ、ドイツ、イタリア、オーストラリアなどの 34 自治体と姉妹（友好）都市提携を行っており、自治体間交流が進められている。

県農政部においては、中国江西省との花き分野での交流を進めるため、花きの品種・品目の情報交換や研修員の受入れ、ベトナム・ゲアン省農業担当者に対する農業技術研修の実施、世界農業遺産「清流長良川の鮎」認定を契機とした研修生の受入れや専門家の派遣等を行っている。また、平成 16 年（2004 年）から、飛騨牛をはじめ、富有柿や鮎などの県産農産物の輸出促進のため、香港、タイ、シンガポール、フランス、イギリス、アメリカなどにおいて知事トップセールスや農産物フェア等を開催している。

県都市建築部関係では、モロッコ王国との友好交流の証である「モロッコ・ロイヤルローズガーデン」が花フェスタ記念公園（現：ぎふワールド・ローズガーデン）に平成 20 年（2008 年）開園した。また、本県とモロッコ王国との共同プロジェクトとしてモロッコ技術者を招いた改修工事が行われ、令和 4 年（2022 年）に再オープンしている。

本学においては、前述のとおり、モロッコ王国及びフランスでは、現地調査及び研修員の受入を行うなど交流を進めてきた。中国及びベトナムでは、研修員の研修先として本学の教育カリキュラムやほ場等の視察に対応した。また、平成 17 年（2005 年）から本学マイスター科 2 年生及び教職員が海外視察研修を実施し、園芸に関する理解を深めるとともに国際感覚を養っている。

(4) 国際化時代に対応する人づくりの方向性

①岐阜県

「岐阜県国際交流戦略」（平成 19 年（2007 年）4 月策定）では、国際交流戦略の方向性として、国際化政策の立案・運営にあたり 7 つの柱（分野）を重点に実施していくとしている。

7つの柱には、「国際化時代に対応した人づくりの推進～教育・文化振興のための海外との交流～」が示され、学校教育や社会教育の現場における国際感覚の醸成や地域におけるリーダーとなるべき人材育成などに取組んでいくとしている。

また、「我が国の国際貢献の一翼を担う国際協力事業の積極的展開～岐阜の特性を活かした国際社会への貢献～」が示され、JICA（独立行政法人国際協力機構）や外務省などと連携しながら、我が国の知恵を求める国や地域の人々の岐阜県への招聘、研修の実施などを通じ、県の持つ知恵や人材、技術などを積極的に提供していくとしている。

②本学

平成30年（2018年）5月に設置した「県立農林系アカデミー・農業大学校運営向上検討会」では、「将来、国際競争力をもてるような、基礎的な能力を身に付けた人材の育成が重要」との意見が出され、平成31年（2019年）3月に策定した「県立農林系アカデミー・農業大学校運営向上プラン」において、「海外の園芸協会等民間団体や大学との人材育成面での連携推進」を掲げている。

また、令和2年（2020年）12月に策定した令和2年度（2020年度）から5年間を計画期間とする「岐阜県立国際園芸アカデミー運営計画」では、5つの運営方針の一つに「実践技術を身に付けた人材の育成」、そのための「教育水準の向上」を掲げ、海外の園芸協会等民間団体や大学との連携推進を行うこととしている。

■「県立農林系アカデミー・農業大学校運営向上プラン」における位置づけ

○海外の園芸協会等民間団体や大学との人材育成面での連携推進

- ・連携可能な海外の教育機関等の選定調査
- ・海外業界団体及び教育機関との連携内容の検討・覚書等締結の推進
- ・視察や研修の受入れ等、連携機関との相互交流による技術・人材育成の推進

■「岐阜県立国際園芸アカデミー運営計画」における位置づけ

○海外の園芸協会等民間団体や大学との連携推進

- ・世界のニーズ、トレンドを把握し、国際力を高め、人材育成に生かすため、海外の教育機関等との連携・調整を図る。
- ・海外派遣研修を経験した卒業生を招き、海外事情を報告する機会をつくる。
- ・技術修得、人材育成の推進を図るため、海外の教育機関等と視察や研修生の受入れなど相互交流を実施する。また、海外の最新情報を学生に提供する。
- ・本学の学習成果等を海外に向け情報発信する。

2 課題

国際市場開放の動きや超少子高齢化、花と緑の業界を取り巻く情勢が大きく変化している中、本学は、社会的視座を有した教育機関となり、業界ニーズの求める方向性を的確に見極め、学生の応用力、発想力、収益や経費を把握する経営力などを向上させる授業を毎年度設定し、技能検定等の資格取得率の向上や国際力を高めていくことが必要である。

国際力の向上については、世界的な園芸の祭典「切尔西フラワー」が開催されるイギリスや、大規模経営中心の農業国であるフランス、小規模経営で多様なイタリア、最新のテクノロジーで世界トップレベルの生産性を持ち高い輸出額を誇るオランダなど、農業生産、花き装飾、造園部門で最先端であり、イギリス式庭園やフランス式庭園といった歴史ある庭園様式を持つヨーロッパの国々や、園芸・造園先進国であるカナダ等において、花と緑に関わる知識、技術、人材育成のノウハウを学ぶことが本学の学生や教職員にとって大変有意義である。

具体的には、国際的に著名なフランス庭園やイギリス式庭園の歴史や設計、年間数百万人が訪れる景観デザイン、植物の栽培管理技術、管理体制、技術の次代への伝承、また、国土レベルでの景観やランドスケープを考える人材をどのような方針で育成しているのかを学ぶことは、本学学生が将来、花と緑の産業の担い手として大いに活躍し、本学の国際化と花と緑の産業に寄与する学校として重要である。

そのためには、

- ①ヨーロッパやカナダ等の国々の教育機関等とのネットワーク構築を行う必要があり、まずは、令和元年（2019年）及び令和4年（2022年）に本学教職員が調査を行い、現在まで連携を図っているフランスのヴェルサイユ国立高等造園学校や海外視察研修等で訪れているイギリスの教育機関等との連携体制の構築を行う必要がある。
- ②連携体制の構築後は、技術習得や人材育成の推進を図るため、定期的、継続的な学生や教職員の研修派遣や研修生の受入れなど相互交流を推進していく必要がある。
- ③さらに、相互交流の成果や本学の学習成果等の海外への情報発信、連携体制を整備した教育機関等をはじめとする花き生産、花き装飾、造園緑化に関する最新の技術、トレンド、イベント等のあらゆる情報の収集を積極的に行っていく必要がある。

V 基本方針（目指す姿）

「岐阜県国際交流戦略」、「ぎふ農業・農村基本計画」、「岐阜県立国際園芸アカデミー運営計画」等を踏まえ、国際交流推進に係る基本方針を下記のとおり定める。

花と緑の産業に関する幅広い知識と実践的な技術の修得や地域に密着した実践的な教育活動の実施に加え、学生や教職員の海外での研修、海外教育機関からの講師や研修生の招聘、世界を相手にした情報収集や情報発信を行い、国際性と自立性を備え、花と緑の産業の中核となって活躍できる人材及び地域社会に貢献できる人材を育成するとともに、本学の国際化を推進する。

VI 運営方針及び推進施策と目標指標

基本方針に基づき、課題を解決するための3つの運営方針と国際交流推進施策をまとめた。

1 海外の教育機関等との連携体制の整備

本学の学生や教職員の国際感覚を醸成し、海外の花と緑に関わる知識、技術、人材育成のノウハウを学ぶため、フランスの「ヴェルサイユ国立高等造園学校」など学生の資格取得や社会人教育に関して本学と多くの共通点を持つヨーロッパの教育機関等との連携体制を構築し、人的ネットワークを拡大することにより、さらに連携体制の拡大を図る。

また、国際交流を行っている県内の他の教育機関等や国、県の関係機関との連携を強化する。

<施策>

- ・フランスやイギリス、カナダなどにおいて、本学と教育理念等の共通点を持つ教育機関や園芸協会等民間団体との連携体制構築に向けた現地調査及びオンラインでの意見交換等を実施する。また、そのための予算を確保する。
- ・「ヴェルサイユ国立高等造園学校」と本学との人材育成等に係る相互交流についての合意を得るため、これまで連携の実績があるヴェルサイユ国立高等造園学校附属研究所所属研究員との連絡・調整を強化する。
- ・「ヴェルサイユ国立高等造園学校」を核としたフランス国内の他の教育機関等やフランス以外の国の教育機関等との人的ネットワーク（人脈）を拡大する。
- ・国際交流事業や教育関係等の情報を積極的に収集するため、国際交流関係機関等との連携を強化する。
- ・本学への留学生の円滑な受入れの促進と交流活動の推進を図るため、「岐阜地域留学生交流推進協議会」に参加し、県内の教育機関等との連携体制の拡大を図る。

<目標指標>

目標指標		基準値 (令和3年度)	目標値 (令和8年度)
1 海外の教育機関等との連携体制の整備			
①	海外の教育機関等調査	なし	毎年1カ国調査 (令和4年度から)
②	国内の教育機関等との連絡会議の開催	なし	毎年2回開催 (令和5年度から)

2 海外の教育機関等との人材育成面での連携

国際性と自立性を備えた人材を育成するため、連携体制の構築後は、学生及び教職員の視察や体験学習派遣、研修生の受入れなどの相互交流を進める。また、連携先の教育機関等からの指導により本学の海外視察研修の充実を図るとともに、新たな派遣・受入れ制度の新設を検討する。

本学が持つ、特に造園緑化などの専門知識や技術を求める国や地域に対しては、県や国の関係機関と連携し、積極的に研修員等を受入れ知識や技術を提供する。

留学生受験資格の見直しや魅力ある教育プログラムの充実等による留学生の受入れの質の向上を図る。

<施策>

- ・ 本学2年生の必修授業である海外視察研修に加え、相互交流に合意した教育機関等への学生、教職員の派遣制度を新設する。また、相互交流の実施に当たり、英語の授業に加え研修等により、学生の語学力向上を推進する。
- ・ 人材育成等の目的を共有し、相互交流に合意した後の本学学生及び教職員の視察調査や研修・体験派遣及び研修生・研修職員の本学への受入れについては、最適な時期や実施内容、人選等をしっかりと調整する。また、派遣、受入れにあたっては、新型コロナウイルス感染症対策などの安全対策マニュアル等を作成する。
- ・ 本学2年生が実施する海外視察研修をより充実したものとするため、相互交流に合意したイギリスの教育機関等から視察先決定に係る事前調整や指導を受ける。
- ・ 安定的、継続的な相互交流を実施するための予算を確保するとともに、JICAや外務省等の相互交流支援事業の活用等を検討する。
- ・ 本学教職員が持つ専門知識や技術などについて、海外での研究発表会等に積極的に参加する。
- ・ 本学への留学生の門戸を広げるため、類似校の留学生受験資格を調査し、受験資格の見直しを行うとともに、需要に応じた魅力ある教育プログラムを整備する。

<目標指標>

目標指標		基準値 (令和3年度)	目標値 (令和8年度)
2 海外の教育機関等との人材育成面での連携			
③	海外の教育機関等との相互交流の合意	なし	2機関と合意
④	海外の教育機関等との相互交流の定着	なし	派遣と受入れを交互に実施

3 海外を相手にした情報発信と情報収集

インターネットや様々な情報交換のツールの世界的な普及により、情報面におけるボーダーレス化は劇的に進み、現地に住む人々の生の声のような草の根レベルの最新情報までも入手できるようになっている。

本学の国際化を推進するため、海外の教育機関等との相互交流の成果や本学の学修成果、教育に関する事項等について、ホームページ等を活用して情報発信するとともに、海外の教育機関や国、県の関係機関等からの国際交流に係る情報を積極的に収集する。

海外で仕事をしている卒業生や海外派遣研修を経験した卒業生から、あるいは、国や県の関係機関に属する国際交流員等から海外事情やベストプラクティス（最優良事例）等を学生向けに報告する機会をつくる。

<施策>

<情報発信>

- ・海外の教育機関等への派遣調査結果や相互交流の成果、本学学生の卒業研究・卒業制作、企業等との共同研究、海外視察研修報告会等の成果を英訳し、ホームページやSNSを活用し情報発信する。
- ・学校見学会やオープンキャンパス等の学校行事や学校概要等を海外に向けてオンデマンドで配信する。
- ・本学の英語版ホームページを更新・充実する。

<情報収集>

- ・ヴェルサイユ国立高等造園学校附属研究所所属研究員等とオンラインにより、教育プログラム、最新知識・技術、イベント、関係機関等の情報を収集する。
- ・海外で仕事をしている卒業生や海外派遣研修を経験した卒業生による在校生に向けた海外事情や経験談等の報告会を開催する。
- ・本学を卒業した留学生を特別講師として招き、現状の勤務状況及び出身国の最新情報等を学生へ講義する機会をつくる。
- ・国際交流関係機関等と連携し、国際交流員等による現地の生の情報提供や経験談を話してもらう特別講義を開催する。
- ・外務省やJICA等の国際交流に係る関連事業の活用可能性を調査する。
- ・本学における国際交流施策の企画・立案のため、国際交流を積極的に行っている大学・企業等での取組を調査する。
- ・欧州日本庭園協会の事業計画と実績情報を収集する。

<目標指標>

目標指標		基準値 (令和3年度)	目標値 (令和8年度)
3 海外を相手にした情報発信と情報収集			
⑤	学習成果のホームページ（HP）等による情報発信	なし	卒業研究・卒業制作等を翻訳しHPで公表（令和4年度から）
⑥	国際交流員等による特別講義の開催	なし	毎年1回開催（令和5年度から）

清流の国ぎふ憲章

～ 豊かな森と清き水 世界に誇れる 我が清流の国 ～

「清流の国ぎふ」に生きる私たちは、

知 清流がもたらした自然、歴史、伝統、文化、技を知り学びます

創 ふるさとの宝ものを磨き活かし、新たな創造と発信に努めます

伝 清流の恵みを新たな世代へと守り伝えます

平成26年1月31日 「清流の国ぎふ」づくり推進県民会議